



JICA中部  
教師海外研修  
ガイドブック  
発行：JICA中部

# JICA中部 教師海外研修 ガイドブック



## 巻 頭 言

JICAでは、これまでの開発途上国に対する国際協力の経験を通じ培ってきた知見を、日本の未来の社会を担う子どもたちに役立つ形で伝え、共に感じ、考えていくことを通じ日本の教育に貢献すべく、開発教育・国際理解教育支援事業に取り組んでいます。具体的には、「世界の様々な開発課題と我が国との関係を知り」「それらを自らの問題として捉え主体的に考え」、「根本的解決に向けた取り組みに参加する」人を育てることを目指し様々な支援メニューを用意して参りました。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、人々の暮らし、経済活動は大きな影響を受けました。教育現場にも大きな変化や対応が迫られたことと思います。このようなコロナ禍のもとでJICA中部が開催した研修も、教師海外研修は中止し国内での研修のみとするとともに、その殆どはオンライン開催へと切り替えました。

この国内研修では、過去の教師海外研修で得られた教材（写真、動画、生活用品、エピソード等）を活用し、学校にて授業実践を可能にするための参加型アクティビティや学習指導案を作成することを目的に、開発教育・国際理解教育の実践とすそ野拡大に貢献する意欲のある先生方に参加いただきました。先生方の開発途上国訪問の経験と熱意が、開発途上国の現状・課題、日本との関係、国際協力の現場への理解を基に、本書として成就した次第です。

コロナ禍によって人と人が接し理解しあう機会に大きな制約が生じてしまった今、我々はそのような前提で意識と行動様式を変えることを迫られています。他方で、対面講義や議論をすることを通じた学びの重要性や、その場としての学校の役割を再確認する機会にもなりました。

Web会議や映像配信による授業といったITを通じたコミュニケーションは遠くないうちにこれまでのような補完・代替的な位置付けを超えていくかも知れません。しかし、従来型の対面教育に比して、新たなコミュニケーション方法によってどこまで人と人との経験や感覚を同質化させることが可能なのか、なお後をよく見ていく必要があります。JICA中部として、今後開発でも、開発教育・国際理解教育でも、できる関与を積み重ねつつ新たなコミュニケーションのあり方を引き続き探求していきたいと思えます。

2020年度にこの国内研修にご参加いただいた12名の先生方のあふれる熱意と真摯な取り組みに敬意を表するとともに、所属学校の校長先生をはじめ関係の皆様のご理解とご支援に心から感謝申し上げます。

参加教員の皆様におかれては国内研修終了後も、地域での開発教育・国際理解教育の継続的かつ果敢な取り組みを期待するとともに、本書が開発教育・国際理解教育に興味や関心をお持ちの、また関わっておられる全ての教育関係者の皆様にとって、些かでも役立つことを切に願っております。

JICA中部センター  
所長 村上 裕道



# I はじめに



- 1. 教師海外研修ガイドブックの概要 …………… 2
  - 1) 目的
  - 2) 内容
- 2. 教師海外研修とは …………… 4
  - 1) JICA の開発教育支援と教師海外研修
  - 2) 教師海外研修の目的・内容
  - 3) 教師海外研修の魅力
- 3. 開発教育・国際理解教育とは …………… 7
  - 1) 3つの目的
  - 2) 「気づきから行動へ」参加型学習による学び
  - 3) 3つの関わる力を育てる参加型学習

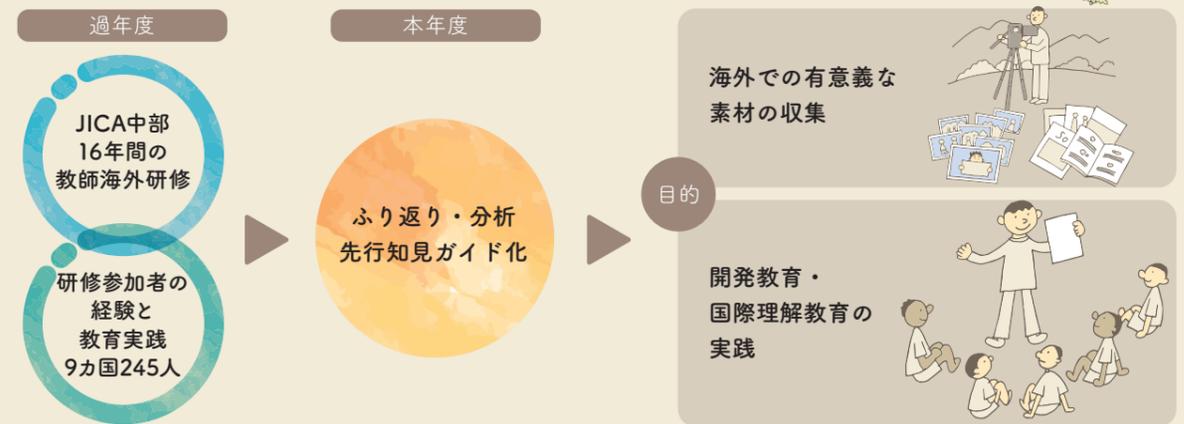


## 1. 教師海外研修ガイドブックの概要

### 1) 目的

教師海外研修ガイドブック（以下「本ガイド」という。）は、JICA中部で実施した過去16年間の教師海外研修と、参加した教師の経験と教育実践をふり返り、分析した結果を先行知見としてまとめたものです。

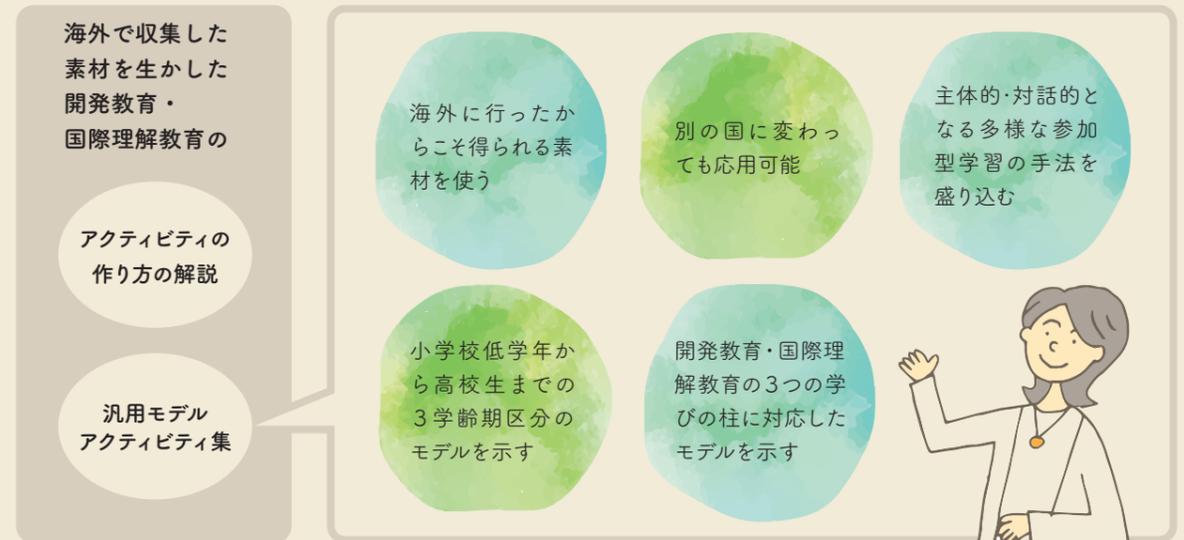
本ガイドは、今後、同研修をはじめ海外へ訪問した教師が、先行知見から素早く学び、貴重な海外での時間を有意義に使って、海外に行ったからこそ得られる素材を収集し、その素材を効果的に活用した開発教育・国際理解教育の実践の助けとなることを目的としています。



### 2) 内容

本ガイドは、海外で収集した素材を生かした開発教育・国際理解教育のアクティビティの作り方について解説をしています。アクティビティとは、授業全体のプログラムを構成するまとまりのある学習活動のことです。

また、下図に示したポイントを踏まえて、過年度の教師海外研修受講者12人とNPO法人NIED・国際理解教育センターが協働で作成した12の汎用モデルアクティビティを掲載しています。

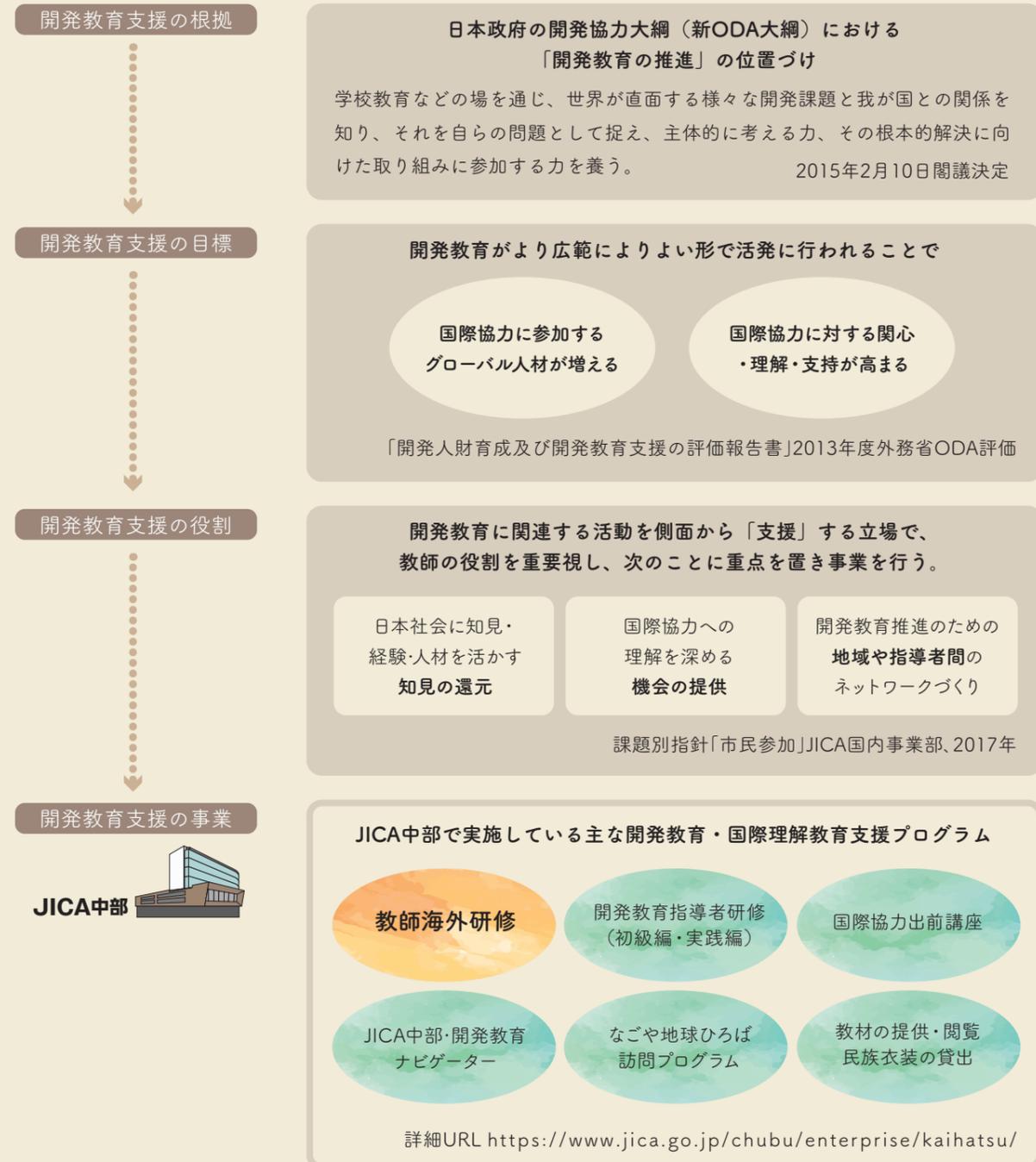


## 2. 教師海外研修とは

### 1) JICAの開発教育支援と教師海外研修

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、日本による開発途上国への国際協力である政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関です。ODAの中長期的な方針を定めた開発協力大綱には「開発教育の推進」が掲げられています。

それに基づきJICAは、下図のような目標や役割を達成するため、開発教育・国際理解教育支援事業を行っており、教師海外研修もその一環として実施しています。



### 2) 教師海外研修の目的・内容

教師に対して、開発途上国の暮らしや国際協力の現場などを直に見聞きする機会を提供することで、得られた気づきや収集した素材を生かした開発教育・国際理解教育の実践につなげてもらうため、下図のような内容の年間研修プログラムを行っています。



#### 6月 事前研修

チームメンバー同士知り合い、訪問先で十分に学び、その結果を教材につなげるための準備を、参加型学習で行います。



#### 8～9月 事後研修①

現地で得た気づきや素材をもとに教材を作り、授業案を仲間と考え、研修成果を十分に活かせる授業実践への準備を行います。



#### 2月 事後研修② + 実践報告フォーラム



#### 7～8月 現地研修

訪問国の首都から郊外の地方都市や農村へ。JICAのプロジェクトサイト、学校などを訪れます。



#### 9～1月 授業実践

世界の人々が共に生きるために、学習者が、何を知り、どう行動するようになるか、海外での経験と国内での研修の成果をいかに発揮します。



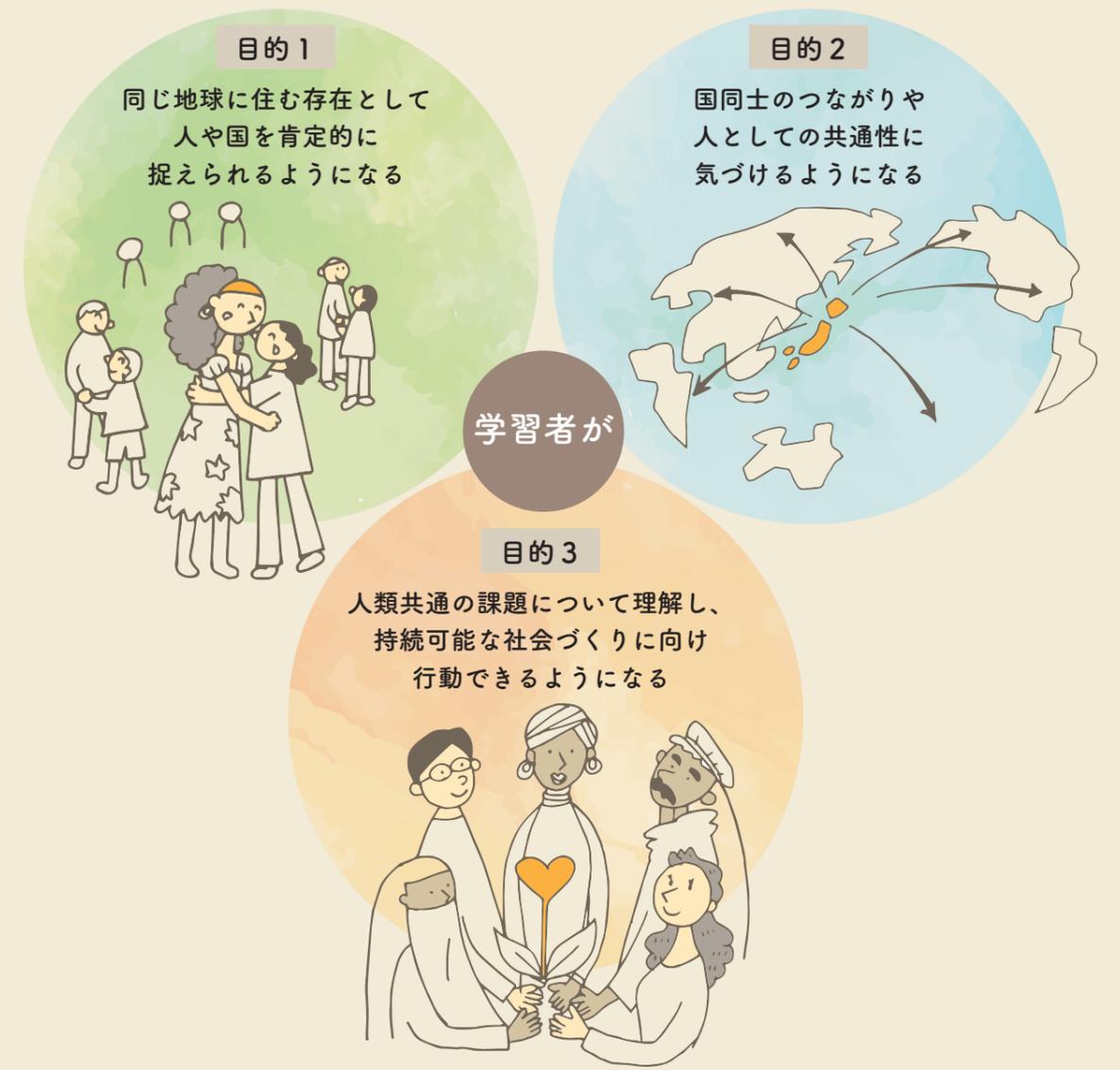
### 3. 開発教育・国際理解教育とは

#### 1) 3つの目的

気候変動、貧困・格差、地域紛争、生物多様性の喪失、感染症のパンデミック、資源の枯渇、農耕地の荒廃、都市インフラの劣化、偏見・差別、無縁社会など、私たちが生きる世界は、人権、環境、平和に関わる多くの課題を抱え、それを解決できないままにいるといつか破綻する（＝持続不可能）とされています。

人・物・情報が国境を越え移動し、相互に依存しつながるグローバル化した現代においては、これらの課題が及ぼす影響、課題をもたらす原因もボーダーレスとなっており、多くの課題が、一国では解決できない、関係する国や人々が責任を果たすべき“人類共通の課題”となっています。

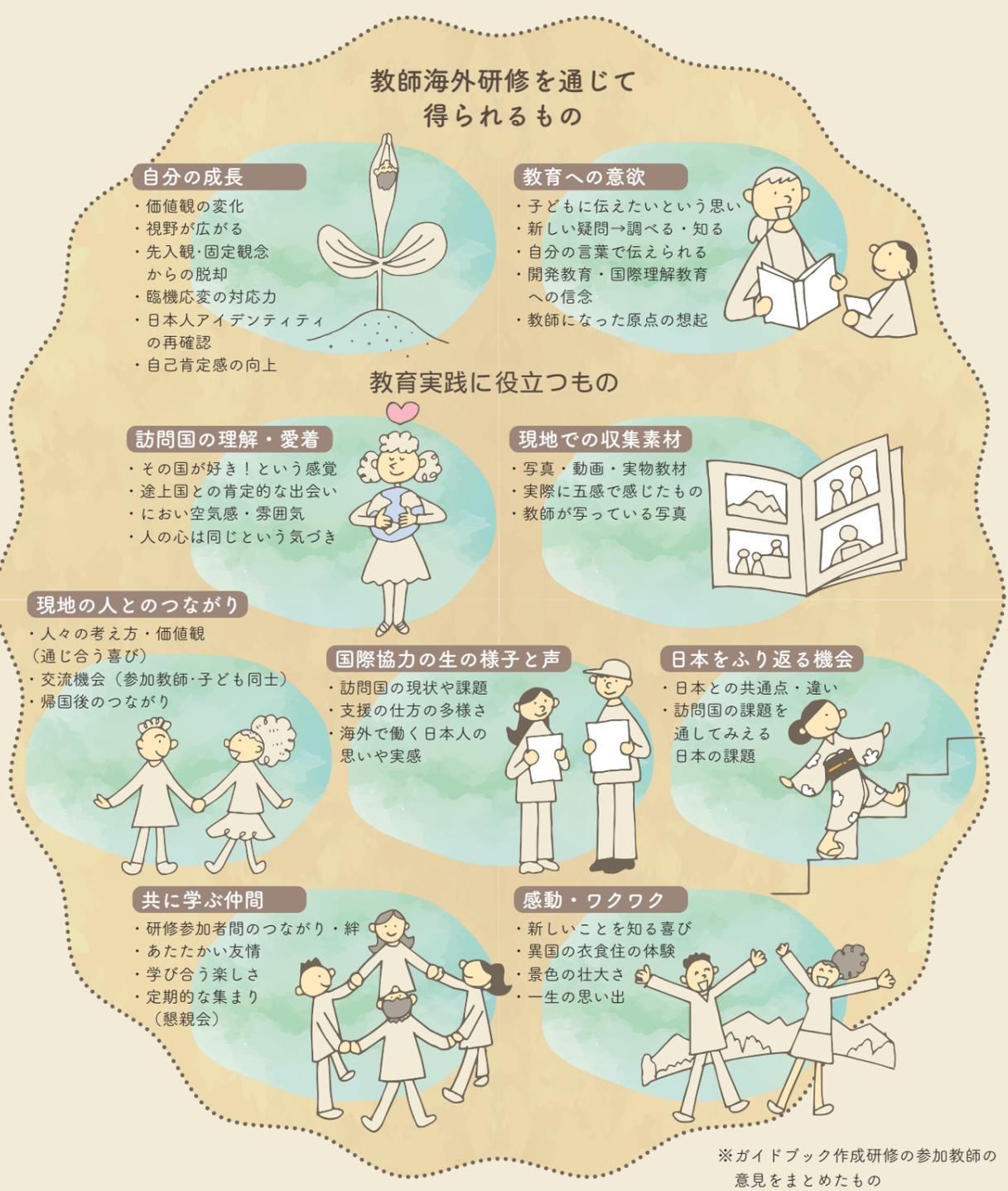
こうした世界において、JICA 中部の教師海外研修における開発教育・国際理解教育の目的は、学習者が、まずは同じ地球に住む存在として人や国を肯定的に捉えられるようになること、次に国同士のつながりや人としての共通性に気づけるようになること、そしてそれらを踏まえて一人ひとりが人類共通の課題について理解し、持続可能な社会づくりに向け行動できるようになることをめざしています。



#### 3) 教師海外研修の魅力

教師海外研修は、五感を使って開発途上国をリアルに体験できること、様々な気づきと教材となる素材を得られること、訪問国との関係性・つながりができることが最大の魅力です。

それに留まらず、参加した教師は、価値観が揺さぶられ自己の成長につながり、校種・地域を越えた同じ志をもつ教師仲間ができ、開発教育・国際理解教育に対する意欲が高まることなどを魅力として感じています。



## 2) 「気づきから行動へ」参加型学習による学び

学習者の主体性、対話、協働を大切に開発教育・国際理解教育では、参加型学習という学び方を中心としています。参加型学習とは、一斉授業のように教師と多数の学習者間のやり取りではなく、学習者同士の双方向の関わり合いにより、自分の頭で考え、他者の考えから学ぶ学習方法です。

人類共通の課題を解決するためには、一人ひとりが、「自分にできることなんてない」、「自分一人が行動しても変わらない」、「誰かがやってくれる」という意識から、「わたしも社会の一員で当事者である」「一人ひとりの選択と行動が世界を変えることができる」という意識となり、行動をよりよく変える必要があります。

参加型学習では、問われることで自分の価値観をふりかえることができます。伝え合うことで多様な価値観があることを知り、異なるものと出会うことで発見や気づきがあります。そうした効果とともに、下図のプロセスのように、「知識・情報」、「気づき」や「意識化とスキル・トレーニング」の場を参加型で提供することにより、「知る」「気づく」「行動する」をつなぎ、一人ひとりの意識と行動変容を支えることができます。

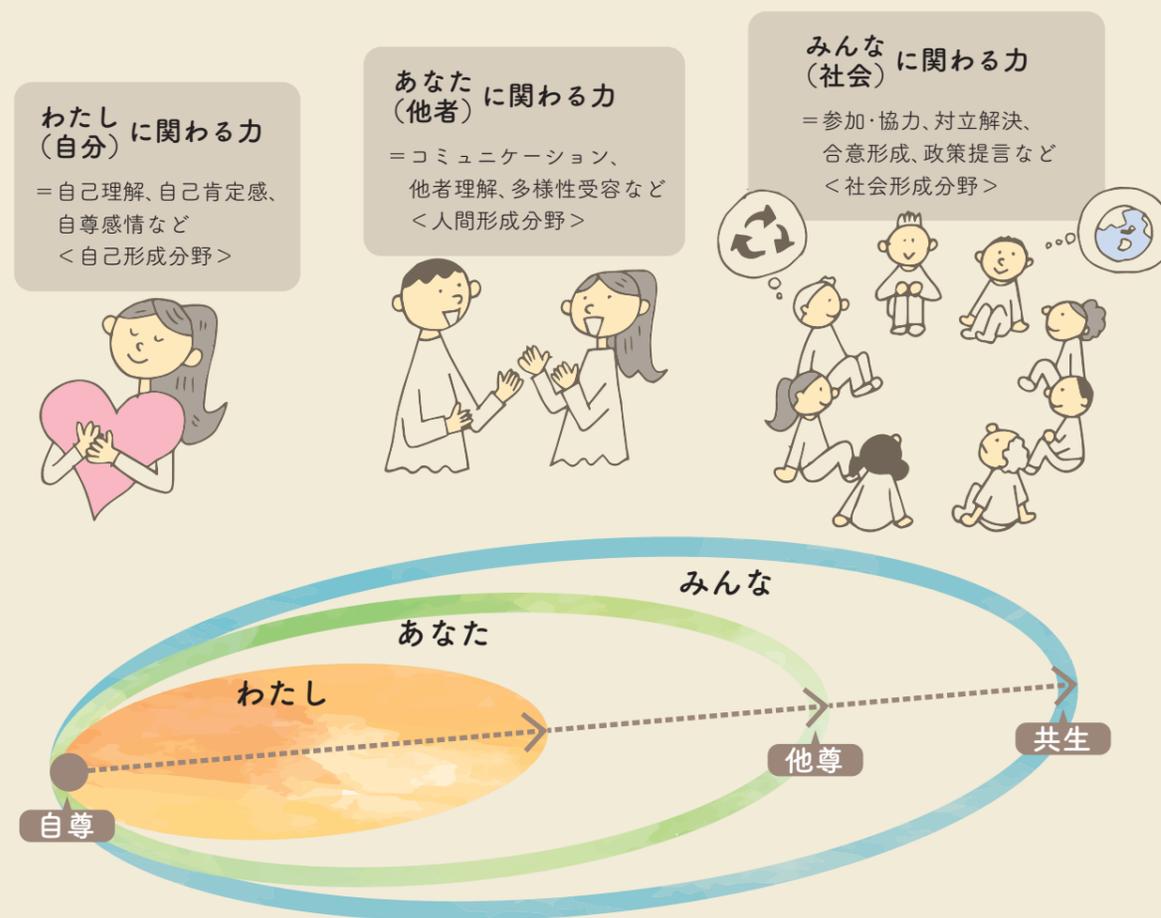


## 3) 3つの“関わる力”を育てる参加型学習

開発教育・国際理解教育は、3つの目的について学ぶと同時に、学習者が自分の力に気づき、自分と自分が生きる社会のよりよい変化のためにその力を発揮することを支援するという視点が必要です。そのためには、学習者の「わたし（自己）に関わる力」、「あなた（他者）に関わる力」、「みんな（社会）に関わる力」を育むことを意識した参加型学習を提供することが重要です。

例えば、じっくりと自分に向かい合う経験、考えや気持ちをふりかえる経験、否定されず批判されずありのままを受容され認められる経験、他者の学びに貢献する経験などは、「わたしに関わる力」を高めることとなります。様々なことを多様な視点でくり返し考え・伝え・聞く経験、立場を変えて考える経験、お互いを尊重し合う経験などは、「あなたに関わる力」を育むことができます。一つのテーマについてじっくり話し合う経験、対立を建設的に解決する経験、グループで協力しながらよりよいものを作り出す経験などは、「みんなに関わる力」を育てることにつながります。

関わる力は関わることで身に付き、参加する力は参加することで身に付けることができます。参加型学習の場は、社会に出て実際に“関わること”のトレーニングの場なのです。



# II アクティビティの作り方



1. アクティビティの3要素 ..... 11
2. ねらい ..... 12
  - 1) ねらいを構想するタイミング
  - 2) ねらいの設定方法
3. 内容(素材) ..... 14
  - 1) 出発前の素材収集の見通し
  - 2) 海外で収集できる素材の解説
4. 手法 ..... 16
  - 1) 学習者の参加度を高める「発問」
  - 2) 分析の枠組みの視点と参加型手法
  - 3) アクティビティ実践のポイント



## 1. アクティビティの3要素

アクティビティは、基本的に「ねらい」、「内容(素材)」、「手法」の3つの要素が組み合わさってできています。開発教育のアクティビティとしては、「貿易ゲーム」や「世界がもし100人の村だったら」などがよく知られていますが、これらも「ねらい・内容・手法」の3要素に分けることができます(下表参照)。アクティビティは、ねらいと内容(素材)と手法を組み合わせれば、目的に応じて自分で作り出すことができます。



アクティビティの3要素の設定例

名称	ねらい	内容(素材)	手法
貿易ゲーム	不平等な条件下での自由貿易は経済格差が拡大して行くことに気づく。	貿易する商品を製造するために必要な材料や道具に不平等な条件の設定	疑似体験する(シミュレーション)
世界がもし100人の村だったら	世界は多様であることを知り、課題や不平等もあることに気づく。	人口、言語、その国がある大陸、識字率、富の分布など、多様な国のデータ	量的に捉える
世界って面白い	訪問国の文化や学校の様子から知らなかった国を身近に感じる。	学習者の関心を引き出す写真や実物教材、情報(例:食べ物、遊び、学校)	想像する(フォトランゲージ)
もしも鎖国したら	世界は相互依存の関係で成り立っていることに気づく。	鎖国した場合の影響	因果関係を考える(派生図)
ちがいのちがい	国や人によって様々に違っていることはあるが、あってはいけない違い(差別)とは何かを考える。	文化、言語、好み、体型、価値観、貧富、ジェンダー、教育など、国や人の間にある様々な「ちがい」の情報	分類する

注:「貿易ゲーム」、「世界がもし100人の村だったら」のワークショップ教材では、上表の他にも派生させた様々なアクティビティが展開されています。

## 2. ねらい

### 1) ねらいを構想するタイミング

ねらいは、学習する目的にあたるものであり、アクティビティを作るうえでの不可欠な要素です。教師海外研修において、ねらいを構想するタイミングは、まずは「海外への出発前」、次に「海外にいる最中」です。

前者は、海外での貴重な時間を有意義に使うためには、予めねらいを構想しておくことで、“後から使える”素材をピンポイントで収集することができます。後者は、訪問国に行って初めてわかる事実や課題も少なくはなく、そうした想定外の出来事や素材からインスピレーションが生まれて、ねらいを発想することもあります。自分のねらいを明確にして訪問国に赴くことも大切ですし、現地で柔軟にねらいを再設定することも大切です。



海外への出発前

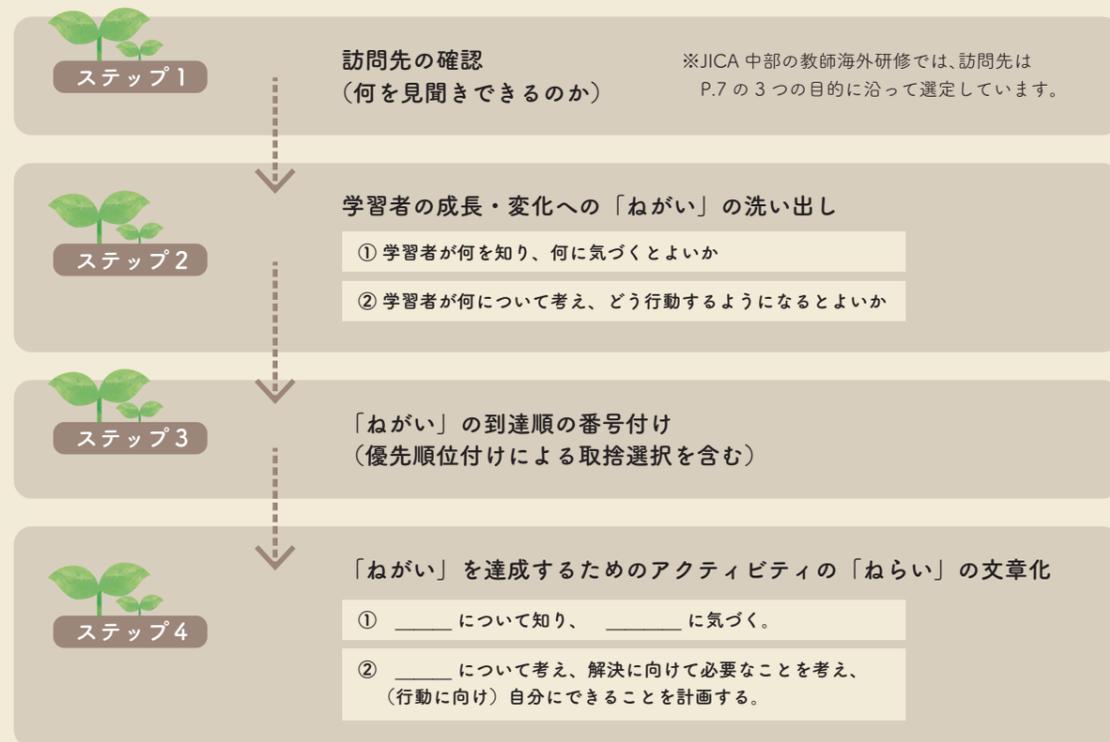


海外にいる最中

### 2) ねらいの設定方法

ねらいは、教師が学習者にどう成長・変化して欲しいかという「ねがい」から生まれます。教師海外研修においては、その「ねがい」は、基本的には教師海外研修の3つの目的に即しつつ、学習者の学齢期、クラスの様子などを考慮したものになると思います。

ねらいの設定は、次の手順で行うことができます。また、具体例を次ページに示しました。



### ステップ1 3つの目的に沿った訪問先の例

※2019年度教師海外研修での設定

目的(学びの柱)	テーマ	訪問先種別
<b>柱1</b> 訪問国と肯定的に出会う	A. 人々の暮らし B. 学校と子ども達 C. 自然・歴史文化	ホームステイ、農家訪問、マーケット、都市と農村 小学校、中等学校、職業訓練校、JICA 海外協力隊赴任校 国立公園、伝統工芸、歴史・文化博物館
<b>柱2</b> 訪問国とのつながりや共通性に気づく	D. 日本との貿易 E. 移民・国際協力	日本への輸出品の農場、加工場、貿易関係企業 日本人移住地、日本語学校、JICA 海外協力隊、専門家
<b>柱3</b> 人類共通の課題を共に考え共に越える	F. 格差是正 G. 持続的経済開発	JICA 海外協力隊任地(学校、農業支援、地域開発、医療保健等) 技術協力現場(技術専門家、草の根、NGO)等



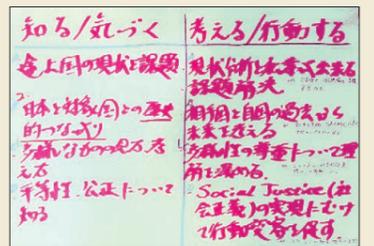
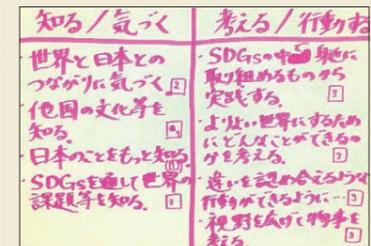
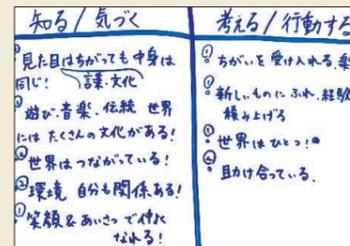
### ステップ2・3 「ねがい」の洗い出しと到達順番号付けの例

※2020年度ガイドブック研修成果物

<小学校低学年>

<小学校高学年>

<中学・高校生>



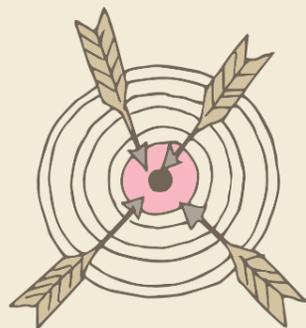
### ステップ4 「ねらい」の文章化 -本ガイドブックでアクティビティ作成のために決定した9つのねらい-

<p><b>柱1</b> 訪問国と肯定的に出会う</p>	<p>① 訪問国の文化や学校の様子を知り、 …世界を身近に感じ、関心を持つ。 …世界には自分の知らないことがあることに気づく。 …多様な文化や考え方があることに気づく。</p> <p>② 訪問国と日本に違いや共通点があること共通点を知り、 …面白いと思える。 …自分や日本の当たり前が世界の当たり前でないことに気づく。</p> <p>③ 開発途上国や地域に対するイメージと実際のギャップを知り、 …自分の中にステレオタイプ*があることに気づく。(※先入観、思い込み、固定観念、偏見など)</p>
<p><b>柱2</b> 訪問国とのつながりや共通性に気づく</p>	<p>④ 日本と訪問国(世界)は、人・物・情報など様々なことでつながっていることを知り、 …経済・歴史・文化的なつながりについて理解する。 …輸出入等を通して互いに支えあっていることに気づく。(日本は、支援する側、支援される側でもある)</p> <p>⑤ 訪問国の人々の気持ちや考えを知り、 …それぞれに大切にしているものがあることに気づく。 …「誇り」や「残念」があること・未来へのねがいは共通していることに気づく。</p> <p>⑥ 訪問国の人々のために活躍する人の気持ちや活動内容について知り、 …よりよく変えようとする、協力しあうことが大切だと気づく。</p>
<p><b>柱3</b> 人類共通の課題について共に考え共に越える</p>	<p>⑦ 訪問国が抱えている課題の現状を知り、 …課題の重大性や課題を放置しておくことの影響を考える。(自分事として捉えられるようになる) …課題の背景や原因を探究する。(日本や自分にも関わりがあることに気づく) …よりよい未来や課題解決のための手立てを考える。 …課題解決の手立ての中から自分にもできることを考え、行動できるようになる。</p> <p>⑧ 訪問国における生活や社会のあり方から日本の課題をふり返り、訪問国から学び、日本や自分にできることを考える。</p> <p>⑨ 訪問国や日本の課題について考えることを通して、一人ひとりの力が社会や世界を変える可能性に気づき、社会参画する力を身に付け、行動に移せるようになる。</p>

### 3. 内容（素材）

#### 1) 出発前の素材収集の見直し

教師海外研修では、海外で目的とする素材を集めてくることが大きなミッションになります。下表のように、海外への上陸前に、日本での事前情報の収集・把握、海外での素材の収集に向けた準備を行ったうえで、実際に海外で収集することが大切です。



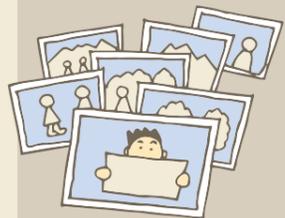
収集機会		内容・留意事項
主に JICA から提供		◇事前研修等に、訪問国の概要、訪問先の協力案件等の情報(背景・目的・活動内容など)が提供される。
扱いたいテーマ・ねらいごとに 教師自ら収集	日本での 収集・準備	◇出発前に、関連書籍、インターネット等から収集する。 ◇例えば、JICA 海外協力隊のブログ、一般の方の旅行体験記、テーマごとの国情報(例：世界の料理、学校の様子、統計データ等)は、現地で実体験につなげたり、意識して素材を収集したりすることの参考になる。 ◇人類共通の課題に対して理解するとよい様々な実態や概念について気づくために NGO 等が作った開発教育・国際理解教育のアクティビティ(例：利害関係者のロールプレイ、貧困の輪、ちがいのちがいが等)を予め知っておくとそれを補完・応用する生の情報を収集することができる。
	海外での 収集	◇様々な情報と共に、写真、動画、実物教材、インタビュー、アンケート、体験エピソードなど多様な媒体・方法で収集できる。

#### 2) 海外で収集できる素材の解説

上記の表に挙げた海外で収集できる素材についての解説と、具体例や工夫をまとめました。

##### 写真

◇教師が、海外で見て「!」「?」と感じたものを映像として残し、学習者に見せることができる。点数としては最も多い素材。



- <具体例> P.22～57 に多くの写真が掲載されているので参照のこと。  
 <工夫> ◇加工・トリミングを想定しできるだけ大サイズ・高画質で撮影。  
 ◇よい表情・ポーズのため人や動きがあるものは連写や複数枚撮影。  
 ◇アクティビティでの活用に適切な内容・構図※で撮影。  
 ※写真の一部を隠して想像、接写→部分→全体像、様々な方向  
 ◇肖像権、子どものプライバシー保護、写真のクレジットなどに留意すること。  
 ◇撮影時に、出版物・教材等への利用許諾を得ること。

##### 動画

◇映像のうち、台詞や音があるもの、一連の動きがあるものは、動画に残し、学習者によりリアルに伝えることができる。



- <具体例> ・インタビューやメッセージ  
 ・訪問先で披露された伝統的な踊りや歌  
 ・現地で流行っている子どもの遊び  
 <工夫> ◇三脚等利用でブレがないように撮影。  
 ◇見やすい映像となる適切操作  
 (パン・ティルト、ズームイン・アウト)  
 ◇時間が1～2分以内でまとまるように撮影。



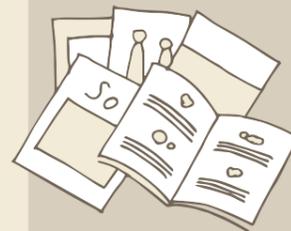
▲パラグアイ海外協力隊 小田翼さん

##### 実物教材

◇「自由に立体的に見る」「触る」「匂う」といった写真、動画ではできない感覚で、学習者がリアルにハンズオン体験できる。

<具体例> ◇実物教材例の種別は、以下のものが考えられる。

- ・紙幣貨幣・地図・絵はがき・台所用品・履き物・晴れ着(伝統衣装)・アクセサリ・楽器・遊び道具
- ・流行しているもの・音楽 CD ・独特な食材・教科書・副教材・民芸品・日本とつながりのあるもの



<工夫> ◇訪問国が身近になるよう衣食住、生活・文化、学校等の視点で収集。

◇共通に使用したいものは、  
 共同で「訪問国 BOX」  
 を作るとよい。



▲マラウイ BOX の中身

▲実物教材を手にとって眺める子ども達

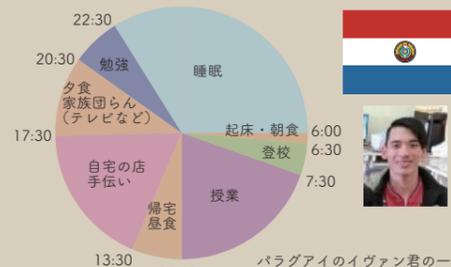
##### インタビュー

◇対象の人に質問をして情報を得る。①文字や図に起こす、②動画に撮る、③画用紙等に描いてもらい写真に撮ること等により学習者に伝える。



- <具体例> ①一日の生活スケジュール  
 ②海外で働く日本人から日本の子ども達に伝えたいこと  
 ③自分の国を紹介する絵、大切にしているもの・こと

<工夫> ◇インタビュー内容は事前にチームで検討・集約しておく。



##### アンケート

◇対象が個人であるインタビューに対し、アンケートは対象が一定の集団であり、集団の傾向を定量的・定性的に把握し、学習者の理解を進めるものです。



- <具体例> ◇同じ年代の子ども 30 人に聞きました！好きな教科は？  
 ◇街で出会った人に聞きました！日本と聞いて何を思い浮かべる？  
 <工夫> ◇交流する学校の子ども達に行く場合は、翻訳したものを事前に送付、回答しておいてもらえると現地での時間を有意義に使える。

##### エピソード

◇現地で体験して気づいたこと感じたことを、文章化して学習者に伝える。行間を読んだり、くり返し読み返したりできる。

カソングさん(37歳、小・中学校の男性教師)の悩み  
 ホームステイ先で彼は、言葉を選びながら語り始めた。「マラウイは、見てもらった通りとても貧しい。農業が主な産業だけど、エイズの影響等で人々の生活は豊かにならない。小・中学校(8年制)の教師に1994年から就いている。一人でも多くの生徒に学力をつけ、高校(4年制)へ行かせてあげたい。しかし、教科書も少なく、2人から3人に1冊の状態だ。1年生に多くの生徒が入学してくるが、義務教育なのに多くの生徒は途中で学校をやめていく。今まで、ここにいた私の教え子達が、夢を画用紙に描いたように、パイロット、ドクター、ドライバーとなり、マラウイ発展のために働いてほしい。でも、夢を叶えるには、彼らの親がお金を出せるかが問題だ。私も3人の子ども達によりよい教育を受けさせるため、より収入の多い高校の教師を目指している。」と語った。



- <具体例> 右記参照  
 <工夫> ◇写真があるとよりよい。

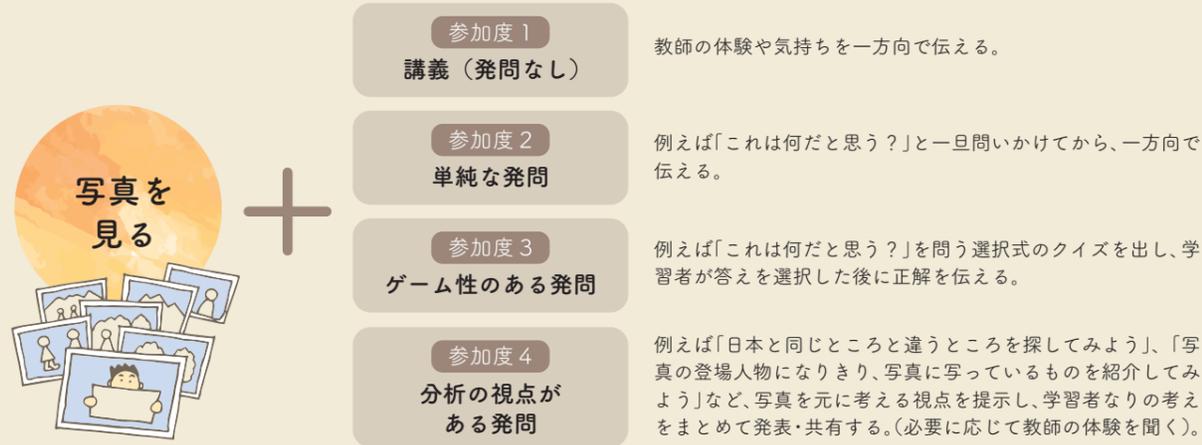


## 4. 手法

### 1) 学習者の参加度を高める「発問」

例えば、「世界を身近に感じ、関心を持つ」というねらいを達成するため、海外で収集した写真素材は、どのように活用することができるでしょう？

開発教育・国際理解教育のアクティビティの教授・学習法の基本は参加型学習ですが、参加型といっても、下図のように様々な参加度があります。「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことはわかる」という中国の諺にもあるように、参加度が高いほど学習者の主体性は上がり、興味・関心の深まりが期待できます。そのため、学習者の学齢期、求めるねらいの内容や深度、クラスの状況に合わせ、学習者の参加度がより高まるような「発問」とすることが望まれます。



### 2) 分析の視点と参加型手法

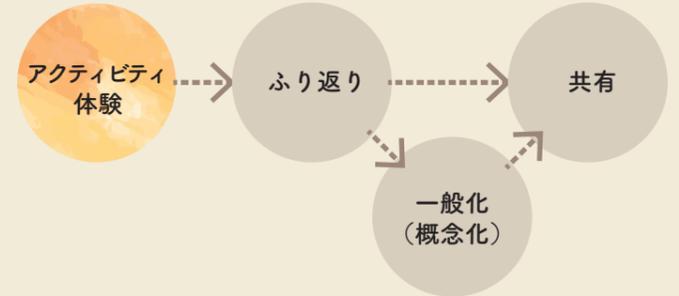
分析の視点には、主に下表のようなものがあり、それに合致した参加型手法があります。各参加型手法の解説はP.58を参照のこと。

視点	参加型手法	ポイント
全体像を把握する	ブレーンストーミング、KJ法 ジグソー法	◇全体像を捉えるために多くのアイデアや意見を出しあう。 ◇全体像を分担・協力して理解する。
対比する 分類する	対比表 マトリックス	◇ものごとの特徴を捉えるために、対比させて考えたり、2種類以上の軸や分類の区分で整理したりする。
因果関係を考える	因果関係図 派生図	◇起きている事象の原因や影響について、因果関係(原因と結果や影響)で捉えて表現する。
優先順位を付ける	ランキング	◇必要なことの優先度を考え、価値観の多様性を踏まえたうえで合意する。
想像する	フォトランゲージ ストーリーづくり	◇写真や絵を見て、その状況や気持ちに思いを馳せ、理解を深める。
当てはめる	マッチング	◇複数の要素を組み合わせたり、該当する部分を探したりして、物事を関係・関連性を理解する。
疑似体験する	ロールプレイ シミュレーション	◇他の立場の人の役割を担ってみたい、現実を単純化した場面や状況を再現してみたりして、構造的な問題に気づく。

### 3) アクティビティ実践のポイント

#### ■ アクティビティの基本となる進め方

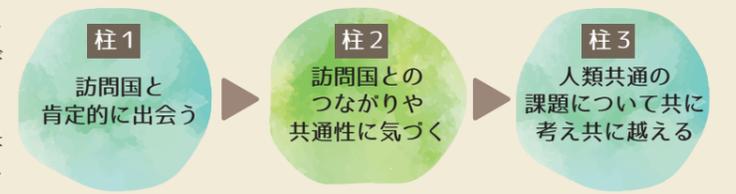
アクティビティを体験することは、それ自体に学習者の気づきを引き出す力があります。しかし、右図のとおり、体験の後に「振り返り→共有」、「振り返り→一般化→共有」という流れで展開すると、さらに学習者の「深い学び」や学習者同士の「学び合い」につながります。



- 振り返り… 広く聞く「気づいたこと、感じたこと、考えたこと」、  
深める問い「なぜそう思ったのか、なぜそれが起こったのか」などで体験を振り返る。
- 一般化… 出てきた意見で発見したことは何か、どのような傾向にあるか、総合してわかることは何かなど、  
原理原則=概念を見つける。
- 共有… 振り返ったことを伝えたり聞いたりして、多様な考え・アイデアから学びを深め広げる。

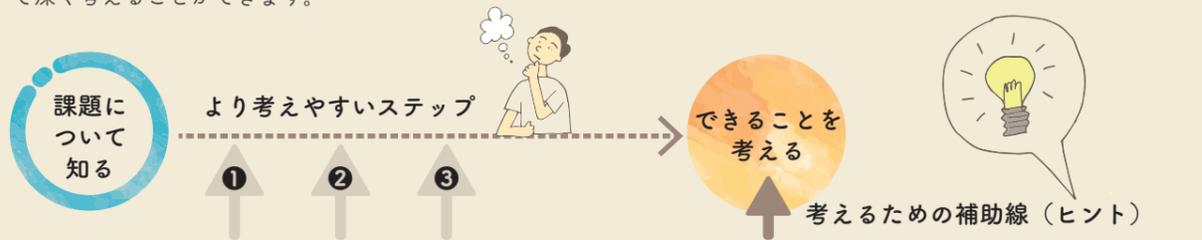
#### ■ 教師海外研修における3つの学びの柱の組合せ

学習者の認知度が低いと考えられる訪問国については、基本的に柱1→柱2→柱3の順で学びを提供することが、学習者の意識の流れに沿い、多様な国や人を理解し、人類共通の課題の解決に向けた当事者意識や主体性を育むことにつながります。



#### ■ 学習者が発想を広げ深く考えるための配慮

例えば、下図のように「課題を知って解決のために自分にできることを考える」場合には、より考えやすいようなステップを踏んだり、自分にできることを考えるための補助線(ヒント)を提示したりすることで、学習者は発想を広げて深く考えることができます。



- 1 課題を放っておくとどうなるか?**  
・重大性を理解して関心が高まる。  
・自分にも影響が及ぶかもしれないと気づいて自分事になる。
- 2 なぜこの問題が起きているか?**  
・課題の背景や原因を理解することで、必要な手立てを考えることができる。  
・自分にも原因に関わっているかもしれないと気づいて自分事になる。
- 3 解決に必要なこと役立つことは何か?**  
・背景を理解し原因を取り除くという視点からシステム思考で考えられる。  
・解決のためのアイデアを出すことで、行動への主体性が生まれる。

時間軸	・すぐできること ・中長期的に考えること
属性軸	・私にできること ・仲間とできること ・日本としてできること
方法軸	・支援現場へアクション ・政治や企業へアクション ・場づくりにアクション ・自分自身にアクション
構造軸	・問題に対して直接支援する ・問題が起きている構造に切り込む ・構造を支える意識・文化に切り込む
価値軸	・自分は何を大切に思うか、 何が重要だと思うかの優先順位で決める

# Ⅲ 海外で収集した素材を生かした 汎用モデルアクティビティ集



1. 汎用モデルアクティビティ集の見方 …………… 19
  - 1) アクティビティ集の全体像
  - 2) 各アクティビティの記載内容
2. 柱1 訪問国に肯定的に出会う  
アクティビティ集 …………… 21
3. 柱2 訪問国とのつながりや共通性に気づく  
アクティビティ集 …………… 33
4. 柱3 人類共通の課題を共に考え共に越え  
アクティビティ集 …………… 43
 

〔2～4 共通〕

  - 1) 各柱の考え方とポイント
  - 2) 各アクティビティの特徴一覧

★ 4つの汎用モデルアクティビティ



## 1. 汎用モデルアクティビティ集の見方

### 1) アクティビティ集の全体像

本ガイドには、教師海外研修向けに設定した3つの学びの柱、9つのねらい、3つの学歴期区分を網羅するように、下表のとおり合計で12の汎用モデルアクティビティを掲載しました。

柱(目的)	No.	タイトル	対象	主なねらい	頁
<b>柱1</b> 訪問国と肯定的に出会う 	1-1	クイズ「世界って楽しい! 面白い!」	小学校低学年	①訪問国の文化や学校の様子を知り、世界を身近に感じ、関心を持つ。	22
	1-2	写真で出会おう! 訪問国と日本の同じところが	小学校低学年	②訪問国と日本に違いや共通点があることを知り、面白いと思える。	26
	1-3	ランキングで比べる訪問国のおもしろ大発見!	小学校高学年	①訪問国の文化や学校の様子を知り、多様な文化や考え方があることに気づく。	28
	1-4	わたしとあなたの国のイメージとギャップ	中学・高校生	③開発途上国に対するイメージと実際のギャップを知り、自分の中にステレオタイプがあることに気づく。	30
<b>柱2</b> 訪問国とのつながりや共通性に気づく 	2-1	あなたの大切なものを教えて!	小学校低学年	⑤訪問国の人々の気持ちや考えを知り、それぞれ大切にしているものがあることに気づく。	34
	2-2	日本と訪問国は〇〇でつながっている!?	小学校高学年	④日本と訪問国は、人・物・情報など様々なことでつながっていることを知り、経済・歴史・文化的なつながりについて理解する。	36
	2-3	多様な世界と私たちの共通点	小学校高学年	⑤訪問国の人々の気持ちや考えを知り、「誇り」や「残念」があること・未来に対するねがいは共通していることに気づく。	38
	2-4	人がつながる国際協力	中学・高校生	⑥訪問国の人々のために活躍する人の気持ちや活動内容について知り、よりよく変えようとする、そのために協力しあうことが大切だと気づく。	40
<b>柱3</b> 人類共通の課題について共に考え共に越える 	3-1	地球の未来を明るくする一人ひとりの小さな行動	小学校低学年	⑧訪問国における生活や社会のあり方から日本の課題をふり返り、訪問国から学び、日本や自分にもできることを考える。	44
	3-2	世界の課題を知ろう! 気づこう! 考えよう!	小学校高学年	⑦訪問国が抱えている課題の現状を知り、課題を放置しておくことの影響を考え、自分のこととして捉えられるようになる。	46
	3-3	女の子なんか生まれなきゃよかった…。	中学・高校生	⑧訪問国における生活や社会のあり方から日本の課題をふり返り、訪問国から学び、日本や自分にもできることを考える。	48
	3-4	貧困をなくす一歩を踏み出そう!	中学・高校生	⑨訪問国や日本の課題について考えることを通して、一人ひとりの力が社会や世界を変える可能性に気づき、社会参画する力を身に付け、行動に移せるようにする。	50

※ ①～⑨は、P.13 に設定した9つのねらいの番号である。

## 2. 柱1 訪問国に肯定的に出会うアクティビティ集



### 1) 柱1の考え方とポイント

学習者にとって開発途上国は認知度が低いことが多く、知っていたとしてもそれは一部が切り取られた固定観念の場合があります。柱1「訪問国に肯定的に出会う」ためのアクティビティは、それらを払拭するために、まずは取り組めるとよいものです。

柱1の素材収集とアクティビティづくりには、下記のポイントが参考になります。

#### 柱1の素材収集とアクティビティづくりのポイント

- ◇ その国の大枠や特徴を捉えること、その国の情報を得て興味・関心をもつことを意識する。
- ◇ ステレオタイプを払拭する多角的な情報を集め、提供する。
- ◇ よく知られていない国は、位置、衣食住、文化、特徴的風景などの基本的情報の提供から始める。
- ◇ よく知られている国は、その国を改めて知ることができるような情報を集め、提供する。
- ◇ 衣食住、あいさつ、音楽、伝統・文化、遊び、生活、スポーツ、学校、価値観などが取り組みやすい。
- ◇ 写真・動画などで視聴覚に訴えたり、クイズや物語などで効果的に学習者の関心を引いたり工夫をする。
- ◇ 学習者の関心を引く手法の一つ「クイズ」の作り方のポイント！
  - ・ 山勘に頼るクイズはNG→例え当たったとしてもそこからの関心につながらない
  - ・ Fが、情報を集める段階で「へえ〜！」と思ったものは学習者も関心をもつ。
  - ・ クイズは、「ウソ・ホント」、「〇か×」、「あるかないか」、「三択」、「穴埋め」、「記述式」、「右と左を線で結ぶ」「絵で答える」などいろいろある。バラエティに富んでいて楽しい。P.24・25 参照。

### 2) 柱1の各アクティビティの特徴一覧

柱1の各アクティビティについての「ねらい・内容(素材)・手法」を中心に俯瞰した一覧表を示します。

No.	主な内容	対象 所要時間	ねらいの要素と 活動の特徴	海外素材	参加型手法	原案作成者 訪問国
1-1	クイズ「世界って楽しい!面白い!」	小学校 低学年 45分	誰もが興味・関心をもちやすい「写真を使ったクイズ」を中心としたアクティビティ	写真 実物教材 エピソード	クイズ フォトランゲージ	狩山智美 (小学校) パラグアイ
1-2	写真で出会おう!訪問国と日本の同じとちがい	小学校 低学年 45分	写真を観察し日本と比較する思考を取り入れることで興味・関心を高めるアクティビティ	写真 エピソード	フォトランゲージ 対比表	宮川勇作 (小学校) パラグアイ
1-3	ランキングで比べる訪問国のおもしろ大発見!	小学校 高学年 45分	同じ世代の関心事に対するランキング&対比および移動する活動を組み合わせたアクティビティ	写真 アンケート	ランキング 対比	柴田英子 (小学校) パラグアイ
1-4	わたしとあなたの国のイメージとギャップ	中学・ 高校生 70分	写真から想像した「物語」と現実とのギャップからステレオタイプに気づくアクティビティ	写真 インタビュー (絵)	ブレンストーミング フォトランゲージ ストーリーづくり	中澤純一 (中・高等学校) バングラデシュ

### 2) 各アクティビティの記載内容

各アクティビティは、見開きで表示しています。アクティビティの3要素のうち「ねらい」と「内容(素材)」は左側ページに、「手法」を含む学習者の活動内容は右ページに掲載しています。

各掲載項目の補足説明など各アクティビティの見方は、以下参照のうえご覧ください。

- 当該アクティビティが想定している対象(学齢期区分)は白抜き、応用可能な範囲の対象を網掛けにしている。
- 当該アクティビティの特徴・ウリをわかりやすく一文で表現している。
- 個人作業、グループワーク、全体活動の学習の3形態をアイコンで表記している
- 活動の流れは、「学習者の活動内容」をメインに表記している。そこに必要に応じて、発問、活動詳細、F※の留意事項を掲載している。
- 左側ページの教材を使用箇所、参加型手法の種類と進め方の参照ページを示している。



- 当該アクティビティのねらいや活動内容に対するFの理解を深めるために、ねらいの背景にある「ねがい」やプログラムとしての展開イメージなどを掲載している。
- 当該アクティビティで使用する教材のうち、「海外で収集した素材を生かした教材」の見本をメインに掲載している。見本以外の教材は以下にアクセスして見ることができる。  

- 出発前の準備に関すること、現地での写真撮影や入手方法に関することなど、海外での素材収集における「工夫や留意点」を記している。
- 「Fの留意事項」には、①学習者の思考を助ける補足的な観点、②想定される混乱に対する対処法、③本活動を行う意図の補足説明を掲載している。また、教材やワークショップ用品(模造紙、マジックセット、A4用紙など)を配る作業は基本的に記述していない。所要時間はそうした作業も加味している。
- ワークシートの見本や学習者がまとめた成果物(模造紙等)、学習者の感想例などを必要に応じて掲載している。

※掲載している写真等で出典の記載がないものは、教師海外研修の受講者が撮影したものである。 ※Fは、ファシリテーターの意である。

# アクティビティ 肯定的出会い 1-1

## 誰もが興味・関心をもちやすい 「写真を使ったクイズ」を中心としたアクティビティ クイズ「世界って楽しい!面白い!」



### ねらい

- ①訪問国の文化や学校の様子を知り、世界を身近に感じ、関心を持つ。
- ②訪問国と日本に違いや共通点があることを知り、面白いと思える。

### 内容 (素材)

海外で収集した素材を生かした教材見本

#### 教材A 学習者の興味・関心をひく写真・実物教材とエピソード



みんな大好き「テレレ」

(冷たいマテ茶)  
写真はバスの運転手さん。パラグアイの人達は毎日テレレを飲みます。2リットル程度の大きな水筒を持ち歩く人も。町のあちこちでテレレを飲みながらおしゃべりしている人を見かけました。味はさっぱりとしていて少し苦めです。



ニャンドゥティ

ニャンドゥティ工房で見せてもらった刺繍レース。全て手で縫って作ります。細い糸を使い、刺繍するのはとても難しいそうです。カラフルなレースは織細でとてもきれい。訪問した高校の授業でも生徒が作っていました。ガラニー語で「蜘蛛の巣」の意味。

#### 工夫・留意点

学齢期に合わせて、想像力をかき立て、答えが「へえ〜!」「そうなんだ!?!」と興味を引くような写真や実物を精選する。教師自身が現地でそう感じたもので、その気持ちや理由を説明できるとよい。教師が写り込んでいるものでないと学習者が親近感をもちやすい。

#### 教材B 日本との対比や固定観念に気づく写真とエピソード

明らかに日本とは違うもの



パラグアイダンスで歓迎!

日本と変わらないもの



日本と同じ?...よく見ると、3リットル入り!

思い込みに気づかされるもの



パラグアイのホテルで食べただしのきいたみそ汁、とんかつ、ご飯!

#### 工夫・留意点

「日本と変わらないもの」の視点としては、どの国でも伝統的なものだけでなく、世界の文化や生活様式は混じり合っていて、日本と同じような服を着ていたり、生活や街の様子に共通する部分などある。「思い込みに気付かされるもの」の視点としては、開発途上国でも都市部では近代的になっていたり、一つの国に様々な人種の人々が暮らしていたりすることなどがある。

#### 付属教材

教材C 小学生低学年向けのふり返しシート →次ページ参照

### アクティビティの ねがい

写真だけでも学習者は関心を示しますが、クイズ形式(思考活動)にすることで、より主体的・対話的な活動にすることができます。さらに、食べる、触れる、体験することのできる実物があれば、五感を使って新しい文化に親しむことができます。最後の感想の聞き方ですが、低学年で記述式が難しい場合は、様々な気持ちや考えの選択肢を用意すると、自分の気持ちに気づく助けとなります。また、クイズの中に、学びの柱2、柱3の内容を入れておくと、次につながるテーマの導入にもなり、学びの展開がスムーズになります。

### 活動の 流れ

学習者の活動内容 [●…活動詳細、\*…Fの留意点]

教材・手法

#### ① 写真や実物教材を見て、どんな食べ物か、何に使われる道具か、何をしている様子が想像し、自由に発言した後に、答えと説明を聞く。

10分～  
個人

【発問】「訪問国の面白いものを見つけてきたよ。」「(訪問先のどこで見つけたものか簡単な説明)、さて、これはなんだと思う? 想像してみよう。」

- \* 一番シンプルなクイズである。選択肢のないクイズのため、ヒントを出したり、質問をいくつか受け付けたりするとよい。ヒントは難しいものから少しずつ簡単なものにする、学習者が考えることに繋がる。
- \* より興味・関心を高めるために、写真を見るだけでなく、実物教材があるものは、見る・触る・実演する活動ができるとよい(但し、その分所要時間は長くなる)。

教材A 写真・実物教材・エピソード

- ★クイズ
- ★フォトランゲージ P.58

#### ② 数枚の写真を順番に見て、訪問国の写真か日本の写真を考え、ハンドサインで意思表示し、最後に答えと説明を聞く。

10分  
個人

【発問】「今度は、訪問国か日本のいずれかの写真を順番に出すので、よく見て、どちらの国か考えて、訪問国だったらパー、日本だったらグーを出してね。」

- \* 全員が同時に参加でき、動きがあって、クラスメイトの様子もわかるクイズ方式である。
- \* 2択なので写真をじっくり見て、日本と違うもの、似ているものを見つけることができる。
- \* 「写真を使ったクイズの作り方」を参考に、他のクイズを取り入れることもできる。

教材B 写真・エピソード

- ★クイズ
- ★フォトランゲージ P.58
- ★写真を使ったクイズの出し方 P.24-25

#### ③ 訪問国について、他に聞きたいこと、知りたいことについて、質疑応答する。

10分  
個人

- \* 学習者からの質問を受けることで、能動的な時間になりたい。また、新しい文化に興味を抱き、疑問やより知りたいという前向きな気持ちを引き出したい。
- \* 全体で質問が出にくい場合には、ペアやグループで出し合った後に質問してもらおうのもよい。
- \* Fが知らない質問が出た場合は、「本当だね。不思議だね。」「それは分からないけど、確かにどうなっているのか興味があるね。」と、学習者の疑問を共感的に受け止めるとよい。

#### ④ クイズを通して訪問国について感じた気持ちを、ふり返しシートに書き、全体で共有する。

15分  
個人

【発問】「訪問国のクイズを解いてみて、どんな気持ちになったかな。自分の気持ちに一番近いものに○を付けよう。○を付けた理由を書こう。」

- \* 高学年ならば「感想を書こう」だけで様々な感想が出てくるが、低学年は難しいため、右のようにプリントを工夫し、「楽しかった」「面白かった」だけでなく、多様な感想が出るようにする。
- \* 文字を読むことがまだ難しい学習者には、気持ちの横にイラストを付けるとよい。また、イラストカードで感想を聞いてもよい。
- \* 全体共有は、数人でもよい。挙手した子どもはできるだけ当てたい。

教材C ふりかえりシート

ふりかえりシート  
名前 ( )

① パラグアイの しんや どうがを見たり 本物を見たりして  
どんな気持ちになったかな? 自分の気持ちに ちがいの 3つに ○をつけよう。

おどろいた	すごい	おもしろい
いつてみたい	ずき	いいな
わくわくする	楽しい	もっと知りたい
たべてみたい	のんでみたい	そのほか

② その気持ちを えらんだ りゆうを 書いてみよう。

## トピック 写真を使ったクイズの出し方（マラウイ・ガーナ編）

写真を使ったクイズの出し方、答えの発表の仕方には、以下の例示のように様々あり、難易度、興味・関心の引きやすさなどを考慮して、選択するとよいでしょう。クイズを作ることを想定し、撮影の構図、その後の加工を考えた画質で、現地で写真を撮るようにしましょう。



### 出し方1 写真を見せて、「これは何でしょう？」と聞く。

【質問】「マラウイでの最終日に泊まったホテルの食堂に右の写真のような大きなつぼが置いてありました。さて、これは何でしょう？」

【解答】ストーブ

【解説】マラウイは赤道に近い熱帯に位置するが、国土の北部はほとんど高原となっており、気温は7℃～29℃。8月の朝は比較的寒く、長袖でストーブがあると気持ちよい。

工夫 特徴がわかるように様々な角度、ズーム・ワイドから撮影する。



クイズ写真

ヒント写真

解答写真

### 出し方2 選択肢を出し、その中から正しいものを、または間違っただのを選ぶ。

【質問】「道ばたで見かけたこの自転車は、何に使うものでしょう？」

【選択肢】①パトカー ②救急車  
③レンタルサイクル ④タクシー

【解答】④

工夫 クイズ用、解答用に分けて撮影する。自分が写り込むと身近に感じられる



クイズ写真

解答写真

### 出し方3 写真の一部を隠し（ぼかし）、その部分に写っているもの当てる。

【質問】「マラウイでは道ばたで色々な物を売っています。ある日バスに近づいてきた人が売ろうと、手に持っているものは何でしょう？」

【選択肢】①ペット用の子犬 ②アイスクリーム  
③パオバブの実 ④小さなバナナ  
⑤食用の乾燥ネズミ

【解答】⑤  
→実は、①、③も売っていたことを写真付きで補足する。

工夫 解答用に、隠していた部分の拡大写真を2段階に見せる。



クイズ写真

解答写真（拡大化）



①子犬の路肩販売

③パオバブの実

### 出し方4 多くの選択肢の中から、正しいもの、または間違っただのを選ぶ。

【質問】「マラウイの小さな村の人に、家を見せてもらいました。家の中で見つけたもの全てを選びましょう。」

【選択肢】①机・椅子 ②ベッド ③洗面台 ④ガスコンロ ⑤テレビ ⑥ラジコ  
⑦ランプ ⑧本 ⑨井戸 ⑩風呂

【解答】全て×

【解説】マラウイは最貧国の一つであり、必要最小限の生活を続けている国民が多い。電気も通っていない。



クイズ写真（外観）

解答写真（建屋入って左側・右側・外の電）

### 出し方5 関連する写真同士や情報を線で結ぶ。

【質問】「一番左の写真はあるものガーナ産の農作物、中央の写真は加工・調理した食べ物、そして一番右はその解説です。線で結びましょう。」

【選択肢】右ワークシート参照

工夫 特産品等でビフォー・アフターがあるものは、両方の写真をできるだけ撮る（撮れない場合は、現地関係者等から入手することも考える）。



イモの一種キャッサバを乾燥させ、お湯にトいてフフにします。主食の一つです。

バナナの一つプランテンは焼いて食べます。お芋のような味です。

チョコレートの原料カカオはガーナの主要農産物です。

アブラヤシの実を搾り、パーム油を作ります。多くの料理に使います。

### 出し方6 写真に関連するデータを、数直線チャートで答える。

【質問】「学校の先生たちと話をしているうちに、とっぴり日が暮れてしまいました。でも、電気はつかず、真っ暗。マラウイの電化率（電気が通っている割合）は、何%といわれているでしょう。数直線上に○を付けましょう。」

【選択肢】

【解答】4%



クイズ写真

#### 答えの発表の方法

- ① 個人で挙手してもらい、当たった人が答える。
- ② 1番だと思う人、2番だと思う人…と順番に挙手する（どの答えが多いか分かりやすいが時間は掛かる）。
- ③ 指本数や番号札で正しいと思う番号を表し一斉に挙げる（全体把握しづらいが、時間短縮できる）。
- ④ 正しいと思う番号の札が貼ってある場所に移動する（全体がよく分る。動きで意見を表現できる）。
- ⑤ ペアやグループで話し合っ、代表者が①～③の方法で答える。

# アクティビティ 肯定的出会い 1-2

写真を観察し、日本と比較する思考を取り入れることで  
興味・関心を高めるアクティビティ

## 写真で出会おう！ 訪問国と日本の同じとちがい



### ねらい

- ②訪問国と日本に違いや共通点があること知り、面白いと思える。
- ①訪問国の文化や学校の様子を知り、世界を身近に感じ、関心を持つ。

### 内容 (素材)

海外で収集した素材を生かした教材見本

- 教材A 全体で提示する写真1種（生活、学校、食べ物、住居、街の様子などが分かる写真）
- 教材B グループに配付する写真3種（教材Aに準ずる他の写真）
- 教材C 教材A・B写真のエピソード



パラグアイ  
デ・オン小学校

写真は、学校の中庭。ステージとスピーカーを使い、音楽と伝統的なダンスを踊って、日本からのお客様を楽しく歓迎してくれました。ダンサーの衣装もきらびやかでとても素敵なひとときでした。



命をいただいている

パラグアイでのホームステイで訪れたイソさんのお宅。食卓に並んだ鶏肉のこみ料理。「これは、うちの庭で育てていた鶏を昨日さばいて作ったものよ」との言葉に、命をいただいていることを改めて実感しました。



イグアス日本人学校

パラグアイには、約一万人の日系人（先祖が日本人の方）が住んでいます。イグアス日本人学校では、みんなと同じように1年生は「はなのみち」を音読していました。



カテウラ地区の景色

パラグアイのゴミが集まる「カテウラ」という地区。裸足のままゴミ山に入っては、リサイクルできるものを採って、その日の夕食代を稼ぐという生活。学校にも行けない。胸の痛む光景と鼻が痛くなるような匂いがありました。

### 工夫・留意点

- ◇写真は、訪問国と日本とを比較して共通点や相違点を見つけやすく、こどもたちの興味関心をひくものを選んで撮影する。
- ◇様々な同じところ、違うところが出るように、ワイドに多様なものが映るように撮影するとよい。
- ◇写真について説明ができるよう、正確な情報や関連するエピソードなどを得てくる。

### アクティビティの ねがい

日本とは違う文化（生活様式、もの）に出会い、「面白い」と思うことが他国への興味につながります。また、日本と他国には共通点もあることを発見できれば、その国に親近感が湧いてきます。写真を見るだけ、説明を読むだけでは想像しにくいことでも、日本と比較する視点で思考しながら、さらに学習者にとって身近な存在であるFが五感を使って自ら学び体験してきた事実を伝えていくことで、世界への関心がどんどん膨らむことが期待できます。

### 活動の 流れ

学習者の活動内容 [●…活動詳細、\*…Fの留意点]

教材・手法



- ① 1枚の写真を見て、気づいたことや想像できることを話し合う。  
【発問】「配られた写真を見て、気づいたことや想像できることをグループで自由に話しましょう。」

教材A 写真  
★フォトランゲージ P.58

\*Fは、同じ写真をB4程度に拡大し黒板に貼る。



- ② グループの代表者を1人決め、グループで話したことを順番に発表する。  
\*前のグループが発表したことと同じことは省いて発表するルールにすると、重複を避けることができ、発表時間の短縮にもなる。  
\*学習者の想像が事実と異なっても否定せず、「どこからそう思ったの?」と問い返しながら肯定的に受け止める。



- ③ 写真の説明を聞く。  
\*Fが写真の説明を行う。関連する写真を加えて説明してもよい。



- ④ 写真について、日本と同じところと違うところを見つけて発表する。  
●黒板の写真を見たり説明を聞いたりして、日本との共通点と相違点を見つけ自由に発表する。  
\*Fは、黒板に貼った写真の左側に「日本と同じところ」、右側に「日本とちがうところ」と書き対比表にする。「日本と同じだと思ったところ」を発表してもらい、板書する。次に「日本とちがうと思ったところ」を発表してもらい、板書する。

★フォトランゲージ P.58  
★対比表 P.58



- ⑤ 同じ国の別の写真を見て、日本と同じところと違うところを見つけて書き出す  
●黒板での書き方と同様に、右図のような写真(3種の内のいずれか1つ)を中央に置いた半模造紙大の対比表に、グループで協力して書き出す。に発表する。  
\*模造紙に書き出す内容は、「想像でもかまわない」と伝えることで、より発言しやすくなる。  
\*高学年の場合は、1グループに配付する写真を2~3枚に増やしてもよい。

教材B 写真  
教材C エピソード  
★フォトランゲージ P.58  
★対比表 P.58

日本と同じところ	日本と違うところ
	
小学校での出来事	



- ⑥ 他のグループが作った対比表を共有し、気づいたことを付け足す。  
●異なる写真を見たグループが作った対比表を回し読みし、見つけたことがあれば書き足す。  
\*回し読みは、異なる写真が全て見られるように行う。  
\*回し読みの時、「写真は違うのに自分たちと同じ意見だ!」や「なるほど」と思ったところに個人で星印をつけることで、より積極的に他グループの成果物を見ることが出来る



- ⑦ 配付したすべての写真の説明を聞いて、その国のことをより多角的に知る。  
\*Fが写真の説明を行う。関連する写真を加えて説明してもよい。  
\*グループで文章を読み合わせできる場合は、教材Cを配付し、グループの中で分担して読み合う。その場合には、説明を読むだけでは学習者が想像しにくいこともあるため、Fは全体で「このときは〇〇だったよ」「ここは〇〇するところだよ」とFの体験や事実を伝えて行く。

教材C エピソード



- ⑧ ここまでの活動を通した感想を全体で共有する。  
【発問】「写真を見て同じところとちがうところの対比表を作ったり、その国の紹介を聞いたりして、気づいたことや感じたことなどを聞かせてくれる人はいませんか?」  
●全体で学習者の何人かが発表する。

# アクティビティ 肯定的出会い 1-3

## 同じ世代の関心事に対するランキング & 対比および移動する活動を組み合わせたアクティビティ ランキングで比べる訪問国の おもしろ大発見!



### ねらい

- ①訪問国の文化や学校の様子を知り、世界を身近に感じ、関心を持つ。
- ②訪問国と日本に違いや共通点があることを知り、面白いと思える。

### 内容 (素材)

海外で収集した素材を生かした教材見本

教材A 現地の子どもが好きな食べ物1～4位のアンケート結果とその写真



教材B 訪問国ならではの  
食べ物の写真  
(エピソードは割愛)



教材C パラグアイの小学生3～6年生約100人へのアンケート結果

好きな動物 ※このクラス	好きなスポーツ ※このクラス	学校で好きな遊び ※このクラス
1位 犬 犬	1位 サッカー サッカー	1位 サッカー 読書
2位 猫 猫	2位 ハンドボール 野球、バスケ	2位 ハンドボール おしゃべり
3位 鳥 鳥	3位 バスケ バドミントン	3位 試合 運動
4位 ペンギン コアラ・兎	4位 テニス 水泳	4位 かくれんぼ なわとび

### 工夫・留意点

◆は出発前の準備時

- ◆アンケート内容を、いつ、どこで、誰に、どのように(何語で聞か、写真も見せて挙手してもらい、記述してもらいなど)聞くのか、前もって考えておく。
- ◆事前に関係現地スタッフを通じて、交流する学校にアンケート内容の送付と協力をお願いしておく、効率的に対象者の情報集約ができることにも現地でもより有意義な情報交流につなげることができる。
- ◇F自身が現地ですべて実際に食べて、五感で感じたことを伝えられるようにする。
- ◇現地で聞く内容を前もって日本でも同様にアンケートしておき、結果を現地で伝えることで、情報を得るだけでなく、伝えあう双方向の交流が行える。
- ◇夏休みなどで学校に子どもがいない場合があるので、その時は応接してくれた学校の教職員に聞く。

### アクティビティの ねがい

学習者がもつ未知のものに対する好奇心をもとに、ランキングクイズ形式で自分だったらどれを食べたいかを考えたり、その国の人はどれが好きかを想像したりして、楽しみながら異文化を知るアクティビティです。学習者が席を立ち移動する「4つのコーナー」という活動は、どのコーナーに移動するかで自分の意見を明確に表すことができ、また、意見の分布を視覚的に捉えることができるのが利点の手法です。それを生かすようなファシリテーションができるとよいでしょう。

### 活動の 流れ

学習者の活動内容 [●…活動詳細、\*…Fの留意点]

教材・手法

## ① 訪問国で人気の食べ物4つのうち、自分が食べてみたいものを選び、移動する。

5分



- 【発問】「4つ食べ物の写真があります。自分が食べてみたいものところに移動してみましょう。」
- 部屋の四隅に貼られた現地の同世代の子どもに聞いた好きな食べ物ランキング1位～4位の写真を見て、自分が食べてみたいものところに移動する。

\*「食べ物」は最も興味を引くことの一つであり、かつ写真も同時に見せられるため、導入に使うのがおススメである。

教材A 写真+アンケート

★ランキング P.58

## ② 選んだ理由を発表する。

5分



- 写真1枚につき、1～2名に、選んだ理由を発表してもらう。

\*発表を聞く際に、「どんな味だと思う?」「日本で似ている食べ物はある?」と問いをつけて、イメージを膨らませていくとよい。

教材A 写真のエピソード

教材B 写真+エピソード

## ③ ランキング結果と訪問国の食べ物についての説明を聞く。

5分



- 【解説例】「写真はすべて現地の子どもが好きな食べ物です。第4位から順に紹介するね。第4位はこちらの写真。「アサード」と呼ばれる食べ物で焼肉料理です。アサードは、スペイン語で「焼かれたもの」という意味です。第3位は・・・」
- 1位まで紹介した後、Fが現地で見たり食べたりした食べ物のうち、その国ならではの食べ物を紹介する。

\*Fが体験したことをその時の気持ちとともに伝えられると、学習者は、よりリアルにイメージすることができ、訪問国を身近に感じられる。

教材C アンケート

★対比 P.58

★ランキング P.58

## ④ 訪問国の同世代の子どもが好きなもの系ややりたい仕事ランキングについて、部屋の四隅への移動を行い、自分たちと比較する。

20分



- アンケートを取ってきた項目について、上記1～2と同様の活動により、アンケート結果の第1位を予想して移動し、選んだ理由を発表する。
- 訪問国のランキングと、事前にクラスで同じ項目でアンケートをした結果を見て、比較する。

\*「好きなもの系」としては、スポーツ、動物、遊び、教科などがあり、訪問国の同世代の子どものことを理解するために、学習者の興味・関心に合わせて自由に設定が可能である。

\*その他、日本の代表的なものの認知度ランキング(富士山、アニメの有名なキャラ、相撲など)といったことも面白い。

\*同じ活動が続くので、理由を聞くときに、①少数のコーナーから、②多数のコーナーから、③すぐ自信のある人に挙手を求めるなど、変化を付けるとよい。

## ⑤ やってみたい感想、自分たちと比較して気づいたこと、発見したことを発表する。

10分



- \*冒頭に、正解した数を多い順に聞いてもよい。
- \*いきなり全体で感想を話すことが難しい場合は、最後に同じ場所を選んだグループで感想を述べ合ってから全体で発表するとよい。

### 【感想例】

「日本にはない食べ物があることを初めて知り、食べてみたいと思った。」「自分の知らない国の食べ物や小学生の夢などを知ることができて面白かった。」「日本とは随分と違うことがわかった。びっくりした。」

# アクティビティ 肯定的出会い 1-4

## 写真から想像した「物語」と現実とのギャップから ステレオタイプに気づくアクティビティ わたしとあなたの国のイメージとギャップ



ねらい

③開発途上国に対するイメージと実際のギャップを知り、自分の中にステレオタイプがあることに気づく。

内容  
(素材)

海外で収集した素材を生かした教材見本

教材A 訪問国がどんな国なのか想像が膨らむような写真数点



教材B 現地の子どもたちが描いた「自分の国の絵」



教材C 教材A、Bのエピソード「1分間物語」→P.32

工夫・留意点  
◆は出発前の準備時

- ◆訪問する学校では、模擬授業ができるのか、子どもたちに絵を描いてもらう時間を取れるのか事前に確認し、訪問先の模擬授業で使う文具は必要枚数、セット数を確認し日本で準備し持参する。
- ◆事前に日本の子どもたちにも日本をイメージする絵を描いてもらい持参すれば、現地の子どもたちにも日本を紹介する機会となる。
- ◇「イメージ通りの訪問国」「意外な訪問国」「想像もできない訪問国」等を意識して多角的な写真を撮影してくる。
- ◇撮影した写真のエピソードや背景等について記録しておく。
- ◇訪れる学校の子どもたちに、はがき大の厚紙に色鉛筆で絵を描いてもらう時間を設定する。

アクティビティの  
ねがい

自分や周りの人がもつ、開発途上国に対する一面的な捉え方や先入観・思い込みに気づくことで、国、民族、文化の多様性に対する理解や人権の尊重へとつながっていく一連のアクティビティです。出来れば、学習者がお互いに自分の国をイメージした絵を交換しあうことで、遠く離れていて実際には会えなくても、つながりを感じあえることが期待できます。

活動の  
流れ

学習者の活動内容 [●…活動詳細、\*…Fの留意点]

教材・手法



① 開発途上国のイメージと訪問国に対するイメージを、模造紙に書き出す。

- 模造紙の左側には開発途上国のイメージを、右側には訪問国に対するイメージを、7分間でできるだけたくさん書き出す。

- \* グループでブレインストーミングを行う。
- \* 全くイメージが湧かない国の場合は、「知らない」「分からない」と書いてもよい。

★ブレインストーミング  
P.59



② 他の2～3グループの成果物を、回し読みで共有する。

- 回し読みの際は、各自、自分のグループでは出なかった意見や共感できる意見に星印をつけると、元のグループに戻した時、他者からの反応が分かりやすくなる。

教材B 写真



③ 訪問国の写真や絵からどんな国なのかを想像し、その国を紹介する1分間物語を作り、発表する。

- 訪問国で撮ってきた4～5枚の写真や子どもが描いた「自分たちの国を表す絵」から想像し、その国がどんな国を紹介する1分間物語をグループで協力して作り半模造紙に書き出す。
- 写真や絵を見せながら、「わたしの国はこんな国！」1分間ストーリーを発表する。(写真の登場人物になりきって発表してもよい。)

教材A 写真

教材B 絵 (インタビュー)

★ストーリーづくり P.59  
★フォトランゲージ P.58

- \* 写真や絵をグループに1枚ずつ配布し、写真や絵から何が読み取れるか考える時間を取り、写真や絵の人物や建物からの視点、写真全体から分かることを物語にするとよい。
- \* 「絵」が複数ある場合は、グループで異なる「絵」を配付してもよいし、「絵」が調達できなかった場合は、全て写真にしてもよい。



④ ここまで使った写真や絵についての説明を聞く。

- \* 各グループが写真や絵から読み取って作った物語の正誤性を問うのではなく、いかに写真から多くのことを読み取り、想像力と創造力を働かせ他国をリスペクトすることができたかが大事であることを踏まえて説明する。
- \* 「絵」については、描かれている特徴的な部分を説明するか、全ての絵に共通するポイント(例えば国を象徴する自然の豊かさや国旗に描かれているものなど)について解説する。

教材C エピソード



⑤ 「開発途上国」や「訪問国」に対する「イメージの変化」をできるだけたくさん書き出し、発表する。

- 【発問】「最初に書き出した開発途上国と訪問国のイメージから変わったことはありましたか? どんなイメージの変化があったかをグループで話し合い、半模造紙にできるだけたくさん書き出してください。」
- 発表では、各グループ発表者を1人決め、模造紙に書き出したことから2つずつ発表してもらい、それを板書して共有する。

※前のグループが発表したことと重複は避けるよう伝える。



⑥ ここまでの活動を通して、気づいたことやわかったことなどの感想を全体で共有する。

- 2分程度考える時間を取り、全体で、5～6人に発表してもらおう。

\*一人ひとり感想を紙に書き、それを2～3人に発表してもらってもよい。

【感想例】

開発途上国といっても、その中にも貧富の差がある。例えば、同年代の子どもでも、ストリートチルドレンのように、劣悪な環境の中で過ごしている子ども達、逆に両親がいる中で育ち、学校にも通える子ども達もいる。一つの国と言っても、全く別の状況や環境が生み出されている。だから、一言にその国を語るのは難しいと思った。

■モデルアクティビティ 1-4 教材C -1訪問国がどんな国なのか想像が膨らむような写真のエピソード



アジアの最貧国といわれるバングラデシュ。首都のダッカでは、数多くのストリートチルドレンを見かけます。バングラデシュ全体で100万人ほどのストリートチルドレンが存在すると言われています。そもそもストリートチルドレンとは、路上で生活をしている子どもを指す言葉です。ストリートチルドレンを、三つの形態に分けることができます。①家庭が貧しいことから日中は路上で働き、夜になると帰る家庭がある子どもたち、②家族がいても家庭に居場所がなく、多くの時間を路上で過ごし、家庭にほとんど帰ることがない子どもたち、③育児放棄や虐待などの被害によって家を離れ、家族との縁も切れ、路上を生活の場とし、家族に捨てられた子どもたちが挙げられます。いずれにしても、みなさんと同年代または年下の子ども達は、多くの時間を路上で過ごし、適切な保護を受けることもできず、常に危険な状態にさらされています。バングラデシュには、このストリートチルドレンの子どもたちを保護・教育することを目的としたNGO団体「エクマトラ」があります。エクマトラの共同代表である渡辺大樹さんは、ストリートチルドレンの減少にむけ、現地で支援活動を続けています。

【上記の写真を見て、中学生が実際に作った物語】

「ああ、皮肉なものだな」。街中を歩いている人々を見ると、きれいな服を着て、高価そうなアクセサリーを身につけ、車にまで乗っているよ。まるで、僕に見せびらかしているようだ。ここに孤独にいるのは僕だけじゃない。「大丈夫?」、「なんでここにいるの?」と、たまにこんなことを聞いてくる人がいる。僕だって、ここにいたくない訳じゃないし、上半身が裸で大丈夫な訳がない。ある日のこと、ある親子の会話に聞こえてきた。子どもはわくわくしながら、「お母さん、今日、カレー食べたいな」と言うと、母親は「そうだね。お父さんと3人で仲良く食べようね」、「うん」と言って去って行った。「ああ、僕もこんな会話をしてみたいな」と思いながらも、なぜか悲しくなっていた。僕には、父も母もいない。物心ついた時には、すでにこのストリートに立っていた。ああ、世界は残酷だ。なんて不平等なんだ。いつか僕も彼らみたいな温かい家庭で生活してみたい。今日も僕は彼らを街頭から見ている。そして、彼らは僕を見ているのだ。

■モデルアクティビティ 1-4 教材C -2現地の子どもたちが描いた「自分の国の絵」のエピソード



南アジアに位置するバングラデシュはベンガル湾に面し、インド、ミャンマーと国境を接しています。バングラデシュの主な産業は第1次産業が中心で、農業と漁業がさかんです。農業では、稲作が中心です。気候条件が稲作に適していて、人口が多いことから労働力も豊富なことが理由にあげられます。また、バングラデシュは、熱帯気候であることから、マンゴー、パパイヤなど南国のフルーツがいたるところで採れます。また、ジュートや茶の栽培もさかんです。バングラデシュはインドに次いで世界第2位のジュートの生産国です。日本語でジュートは黄麻と訳されます。1年草の植物で、茎から繊維

をとります。ジュートからつくられる製品として、コーヒー豆や大豆、小麦、米などを入れる食料袋、樹木を保護する巻きテープ、テーブルクロスなどの日用雑貨があります。バングラデシュの国旗には緑地に赤丸が描かれています。緑はイスラム教を表し、赤丸は国が栄えるよう「地平線から昇る太陽」を表しているものと、緑はイスラム教の神聖な色で農業を、赤は独立の時に流された血を表しているという説があります。バングラデシュの子どもたちが描いた絵にも、ベンガル湾や地平線から昇る太陽、海や自然の恵みが描かれています。

【上記の写真を見て、中学生が実際に作った物語】

私の名前は、キールク。小学4年生。私の家の近くには、大きな海があります。お父さんとお母さんは、朝から夜遅くまで、どこかに出かけて働いています。だから、私の遊び相手は、この大きな海と大きな木。おじちゃん、いつも自慢の船に乗せてくれて、航海に連れて行ってくれます。だけど、普段は学校があるので、休みの日しか航海には出かけられません。私は、学校も好きです。朝早く起きて、身支度をして、家を6時には出ます。学校まで、歩いて1時間かかります。先生は優しく、友達はおもしろくて、私はとても恵まれた環境で学校生活を送っています。学校から帰ると夕暮れ時には、家の前の海から、太陽が沈むきれいな風景が見られます。だけど、仕事から帰ってくる両親の顔をみると、最近、やつれたように感じます。仕事が忙しすぎて肉体的にも精神的にも疲れ切っているようです。私は、早く両親を楽にさせてあげたいので、勉強を頑張って、良い仕事に就けるように努力します。

3. 柱2 訪問国とのつながりや共通性に気づくアクティビティ集

1) 柱2の考え方とポイント

グローバル化した世界では、日本は、どんな国とも相互依存的に、もの、人、情報でつながりがあります。海外に訪問する前に、「日本訪問国つながり」でネット検索すると、少なからずつながりの要素がヒットするはずです。

また、どんな国でも、同じ人間として抱く喜怒哀楽の感情、未来に対する夢や希望には共通性があります。そうしたつながりや共通性を知ることが、その国やそこに暮らす人々に対しての親しみや共感につながります。



**人**

国際協力に携わる人  
日本人移住者（日系人）  
BOPビジネス等の企業人など

**もの**

日本からの輸入品  
(ex.自動車、機械類)  
日本への輸出品  
(ex.食料、資源)

**情報**

日本の文化  
(ex.漫画アニメ、日本食)  
日本の技術や考え方  
(ex.カイゼン、一村一品)

2) 柱2の各アクティビティの特徴一覧

柱2の各アクティビティについての「ねらい・内容(素材)・手法」を中心に俯瞰した一覧表を示します。

No.	主な内容	対象 所要時間	ねらいの要素と 活動の特徴	海外素材	参加型手法	原案作成者 訪問国
2-1	あなたの大切なものを 教えて!	小学校 低学年 35分	学習者と同年代の子どもの 気持ちや考えから、人 としての共通性に気づく アクティビティ	写真 インタビュー	ランキング ビンゴ 対比	児玉やこ (小学校) パラグアイ
2-2	日本と訪問国は 〇〇でつながっている!?	小学校 高学年 45分	訪問国とのつながりを広 く捉え、「物語」づくりを 通して深く知るアクティ ビティ	写真 エピソード	フォトランゲージ ジグソー法 ストーリーづくり	伊藤聡子 (中学校) パラグアイ
2-3	多様な世界と 私たちの共通点	小学校 高学年 70分	訪問国の人々と自分たち を、自国の「誇り」や「残念」 で比較し、共通性に気づく アクティビティ	写真 インタビュー	ストーリーづくり マトリックス	野村佳世 (中学校) エルサルバドル
2-4	人がつながる国際協力	中学・ 高校生 65分	人の思いや技術による支 え合いで世界はつながっ ていることに気づくアク ティビティ	エピソード 写真 インタビュー (動画)	マッチング ロールプレイ ジグソー法	夏目佳代子 (高等学校) ブラジル

# アクティビティ つながり・共通性 2-1

## 学習者と同年代の子どもの気持ちや考えから、 人としての共通性に気づくアクティビティ あなたの大切なものを教えて!



ねらい

⑤訪問国の人々の気持ちや考えを知り、それぞれに大切にしているものがあることに気づく。

内容  
(素材)

海外で収集した素材を生かした教材見本

教材B 大切なものを描いた画用紙を持つ訪問国の子どもの写真



工夫・留意点  
◆は出発前の準備時

- ◆学習者の学齢期や扱いたいテーマに応じて、どんな年齢・立場の人に何を聞くとよいか考えておく。
- ◇学齢期や滞在時間によっては、イラスト付きにすると、よりイメージしやすい。
- ◇学習者に親近感をもたせるため画用紙に「大切なもの」を描いた人が一緒に映るように撮影するとよい。
- ◇現地の言葉で書いてあるので日本語訳をつける必要がある。同行する通訳さんや現地のJICA海外協力隊の方などにその場で聞けるとよい。
- ◇学習者が多く答えるだろう回答、それとは異なるような回答、どちらも集められるぐらいの人数に聞くとよい。

付属教材

教材A ワークシート「あなたの大切なもの」 →次ページ参照

アクティビティの  
ねがい

国は違っても、人が抱く気持ちや価値観には共通性があり、同じ人間として普遍的なものがあります。今回は素材を「大切なもの」としましたが、「幸せを感じる時」、「将来の夢」などをテーマに扱ってもよいでしょう。子細に見ていくほど異なる部分も多く見えてきますが、大切なものがある、幸せを感じる時がある、将来の夢がある、といった心情は共通しています。このことから、どちらも「同じ人間」なんだという理解につなげていきます。

活動の  
流れ

学習者の活動内容 [●…活動詳細、\*…Fの留意点]

教材・手法

5分  
個人

① 自分の大切なものを多様な視点で考え、書き出す。

【発問】「自分が大切だと思っているものをいろいろ考え、できるだけたくさんワークシートに書き出しましょう。」

\* 目に見えるもの・見えないもの、人・物・事、お家・学校・地域などの場面、といった多様な視点を途中で伝え、イメージが膨らむ。

3分  
個人

② 書き出したものの中からベスト3を選び、ランキング欄と9マスビンゴ表に書き込む。

\* 発達段階に応じて、ベスト5でもよい。

10分  
全体

③ 以下のいずれかの方法で、他の人のベスト3を聞き、自分とは異なる意見でビンゴ表を埋める。

- ① 全体で発表し、板書されたものから好きなものを選び、ビンゴ表を埋める。
- ② 教室を自由に立ち歩き、ペアを替えながら1対1で聞き合い埋める。(カクテルパーティー方式)

\* 自分と違う意見でも「なるほど」「そうなんだ」と受けとめることが大切であることを伝えておく。

\* ここで、クラスメイトが考える大切なものの多様性や同一性に気づけるとよい。

\* ②の方法で行う場合、聞き合う前に訪問国の挨拶を入れると楽しい。

10分  
全体

④ 写真等で紹介される訪問国の子ども達の大切なものが、自分のビンゴ表にあるかチェックする。

【発問】「訪問国の子ども達が教えてくれた大切なものを紹介するので、自分たちの大切なものと同じものがあるかビンゴ表で確認してみよう！」

\* 大切なものの共通性に気づくためのものなので、厳密に考えず、例えば、「親」、「きょうだい」が出された場合、「家族」と書いた人も○をつけてよいし、その逆もよいとする。

7分  
グループ

⑤ これまでの活動を通して、気づいたこと、感じたこと、発見したことを話し合い、発表する。

- 自分が大切なもの、クラスメイトが大切なもの、訪問国の子ども達の大切なものについて、ビンゴを通して比べてみた感想をグループ(またはペア)で話し合う。
- 話し合った結果を数人が発表し、共有する。Fは板書する。

【感想例】  
「違う国に住んでいるけど、大切にしているものと同じだったよ」「わたしが思いつかないことを書いていたよ。でも人それぞれ大切にしているものがあるんだな」

教材A ワークシート



★ランキング P.58

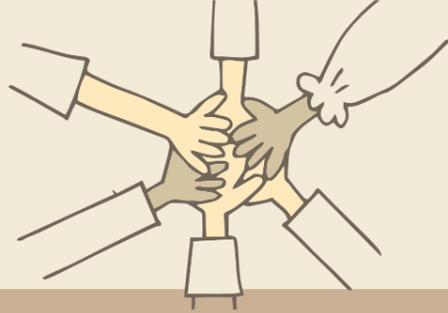
★ビンゴ

教材B 写真

★対比 P.58

# アクティビティ つながり・共通性 2-2

## 訪問国とのつながりを広く捉え、 「物語」づくりを通して深く知るアクティビティ 日本と訪問国は〇〇でつながっている!?



ねらい

④日本と訪問国は、人・物・情報など様々なことでつながっていることを知り、経済・歴史・文化的なつながりについて理解する。また、輸出入等を通して互いに支え合っていることに気づく。

内容  
(素材)

海外で収集した素材を生かした教材見本

教材A 訪問国と日本のつながりに関する写真

教材B 教材Aのつながりに関するエピソード



**ショッピングモール駐車場の日本車**  
パラグアイのショッピングモールの駐車場には、トヨタやスズキなど日本の自動車がたくさん並んでいます。パラグアイは日本から自動車や自動車部品、機械などを輸入しています。パラグアイの街中では、日本で生産された自動車がたくさん走っています。



**JICA海外協力隊の活動**  
JICA海外協力隊としてパラグアイに派遣されている太田さんは、カグアス市職業訓練高校の農牧科で野菜の栽培方法の技術指導を行っています。雑草だらけの更地だった場所に畑を作り、今は生徒たちの手でキャベツやミニトマトなどのたくさんの野菜が栽培されています。



**日本式の教育の「NIHON GAKKO」**  
日本で研修を受けたパラグアイ人の教員が、日本式の教育に感銘を受け創設した私立学校です。規律正しさ、責任感を持った子どもに育てほしい、日本文化を少しでも学ばせたいというパラグアイ人の親が選択しています。空手や日本舞踊などのクラブ活動も活発に行われています。

教材C 特定のテーマの日本と訪問国のつながりを示す写真4枚一組  
(日系移住者によるゴマの生産と日本への輸出による農家収入向上)



①収穫したゴマ



②ゴマ生産農家



③日系人白沢さん



④日本輸出ゴマ商品

教材D 「日本とパラグアイのつながりの物語」エピソード →次ページ参照

工夫・留意点

◇日本とつながりのあるものを調べ、どんな写真を撮るのかをイメージしておくといよい。但し、イメージにはこだわら過ぎないよう現地で見たと、感じたことを基に柔軟に変更できることが大切である。  
◇つながりの例として、以下のものを想定して、関連する写真を撮ったり、ヒアリングを行ったりする。  
・人のつながり…訪問国で訪問国のために仕事や支援を行う人、訪問国に移住した日本人やその関わり  
・もののつながり…日本が訪問国から輸入しているもの、訪問国が日本から輸入しているもの  
・文化のつながり…日本の文化で訪問国に入っているもの、訪問国の文化で日本に入ってきているもの

アクティビティの  
ねがい

日本と訪問国とのつながりは、一朝一夕に出来上がった訳ではありません。そこには、必ず何らかの背景や歴史、先人の努力など、つまり「物語」があるはず。そのつながりや物語を、資料を使って読み解くのではなく、写真を足がかりに自分たちで想像することで、その背景をじっくりと考えていくことができます。現時点での横のつながりだけでなく、時間軸に視点を置いた、いわば縦のつながりを考え、感じるアクティビティです。

活動の  
流れ

学習者の活動内容 [●…活動詳細、\*…Fの留意点]

教材・手法



① 訪問国の写真を1人1枚担当し、読み取れることを出し合う。

●訪問国と日本とのつながりを表した写真1セットを分担し、それぞれについて何の写真だと思うか、担当者が写真を提示しながら発表する。

\*現地で発見した日本とのつながりに関係する写真は、見つけただけ用意し1セットとする。(教材Cのテーマの写真は除く。)  
\*写真1セットの枚数とグループの人数が合わない場合は、2人で1枚の写真を担当する、または1人で2枚の写真を担当する。  
\*「すべての写真の共通点は何か」という追加の問いかけをしてもよい。

教材A 写真

★フォトライター P.58



② 分担した写真の説明文を各自読み、発表しあう

\*①で担当した写真の説明文を読み、他のメンバーに伝える

教材B エピソード

★ジグソー法 P.60



③ 4枚一組の写真で「日本と訪問国のつながり」というテーマの「物語」を作り、発表する。

●グループで、写真から読み取れることを話し合い、つながりを想像し、写真の順番を変えて流れのある物語を作り、全体で共有する。

\*写真ごとに読み取った内容は、簡単にメモしておく。  
\*写真とは別にA3用紙を用意して、「物語」にまとめる。

教材C 写真

★フォトライター P.58

★ストーリーづくり P.59



④ 実際のつながりについて、Fから説明を受ける。

\*各グループが写真から読み取って作った物語の正誤性を問わず、想像力と創造力を働かせて考えることも大切であることを踏まえて説明する。

教材D エピソード

### 「日本とパラグアイのつながりの物語」エピソード

写真③：日系人の白沢さんは、農作物の輸出を手がける白沢商工株式会社をパラグアイに設立しました。

写真①：白沢商工株式会社がゴマの開発を進めていた頃、綿花が価格低下などの影響を受けて急激に減少し、治安の悪化や貧困が問題となっていました。

写真②：そこで、白沢さんは「パラグアイ経済をなんとかしたい」という使命感から、綿花の代わりになる作物として小規模農家にゴマの種を配付し、栽培の技術指導を行いました。ゴマ栽培は機械化が難しく、細かい手作業を必要とするため、小規模農家に適した作物となり、農家の収入向上につながりました。

写真④：パラグアイ産の品質の良いゴマは日本で需要が高まり、たくさん輸出されるようになりました。そして、すりゴマやいりゴマなどの形に変えて、私たちの食卓に運ばれてきます。



⑤ これまでの活動を通して、気づいたこと、感じたこと、発見したことを発表する。

●訪問国の多様なつながりについての活動を通して、気づいたこと、感じたこと、発見したことをグループ(またはペア)で話し合う。  
●話し合った結果を発表し、共有する。Fは板書する。



汎用モデルアクティビティ集

# アクティビティ つながり・共通性 2-3

## 訪問国の人々と自分たちを、自国の「誇り」や「残念」で比較し、 共通性に気づくアクティビティ 多様な世界と私たちの共通点

ねらい

⑤訪問国の人々の気持ちや考えを知り、「誇り」や「残念」があること・未来に対する願いは共通していることに気づく。

内容  
(素材)

海外で収集した素材を生かした教材見本

教材A 5つの項目から訪問国を紹介した写真とエピソード (1観点1枚ずつ)

項目① 平日のスケジュールの例 →P.15 インタビューの具体例①イヴァン君の一日参照  
項目② エルサルバドルの食事についての紹介例



ある日の昼食!! 豪華に野菜も海産物もバランスよく食べることが大事だと思っているよ。



名物料理「ププサ」。とうもろこし粉の生地、肉、チーズなどを包んでから平たく伸ばして鉄板で焼いて食べるよ。



熱帯の気候では、バナナの木もいたるところにあり、取り放題で、学校帰りによく取って食べるよ。

教材C 訪問国の「誇り」と「残念」に関する写真と内容 →内容は次ページ参照

自国の「誇り」と「残念」のインタビュー写真

「残念」の内容を表す写真



治安の悪さ

ごみの散乱

工夫・留意点

◇訪問国の暮らしや文化について紹介する観点としては、次の5項目を基本としつつ、現地で実際に見聞きして、カテゴリを変更してもよい。[①平日のスケジュール、②主な〇〇国食、③学校の様子、④都市部と地方部のまちな様子、⑤習慣や国民性]  
◇現地の人が、自分の国に対し、誇りに思っていること、残念に思っていることをインタビューし、紙に書いてもらったりするとよい。可能であれば、上記の「誇り」や「残念」に関する写真もあるとよりよい。

付属教材

教材B ワークシート「日本について紹介しよう」 →次ページ参照

アクティビティの  
ねがい

自分の国について感じる「誇り」や「残念」に思うことは、誰にもあります。その内容は国によって、人によって違うこともありますが、並べて比較することで人々の思いや考えの中に共通性を見つけることができます。特に、誇りに思うものを大切にしたい気持ち、残念に思うことをよりよく変えたいと願うことは、人として共通することに気づけるとよいです。後半がメインのアクティビティとなりますが、前半で訪問国と自分たちの暮らしや文化について考えることが、後半の「誇り」や「残念」について、より深く考えることにつながります。

活動の  
流れ

学習者の活動内容 [●…活動詳細、\*…Fの留意点]

教材・手法

① 同世代の子どもが説明する写真と説明から、訪問国の暮らしや文化について知る。



●訪問国に暮らしている子が、自分の国や自分について5つの項目から紹介してくれたことを、配付された写真を見ながら、Fから聞く。

\*5つの項目は、例えば、①平日のスケジュール、②主な訪問国食、③学校の様子、④都市部と地方部のまちな様子、⑤習慣や国民性など。  
\*教材Aは、訪問国の同世代の子が私たちに教えてくれるという設定で説明する

教材A 写真・エピソード

★フォトランゲージ P.58

② 訪問国についてわかったこと、驚いたこと、よいと思ったことを発表する。



\*グループの全員がどれか1つについてでも話せるとよい。

③ ①と同様の5つの項目で日本を紹介する文を、分担して作る。



【発問】「今度はみなさんが日本のことを教えてあげる番です。①～⑤まである5つの項目のうち、グループの誰がどれを担当するかを決めて、それについて日本のことを教えてあげる説明文とどんな写真を付けるとよいかを考え、ワークシートに書き入れましょう。」

\*5人グループであれば1人1項目を担当できる。4人グループの場合は、1項目は担当者なしとするか、2項目やってもいいという人をお願いするとよい。  
\*個人作業が難しければ、①～⑤の要素出しをグループでしてから、それを参考に個人で分担した項目を書くという手順でもよい。

教材B ワークシート

★ストーリーづくり P.59

項目	紹介文
①スケジュール	
②食	
③学校	
④まち	
⑤習慣	

④ 分担して書いた日本や自分についての紹介文を、グループで順番に発表しあう。



●発表の順番を決めて、自分が担当したところの紹介文を読み上げる。

\*時間があれば、①～⑤の項目でどんなことを紹介に入れたかを全体で発表してもらおうとよい。

⑤ 訪問国の人が自国について感じている「誇り」と「残念」についての説明を聞く。



●訪問国の人が自国についての「誇り」と「残念」が書かれたエピソードを各自読む。

\*Fは、訪問国で出会った人々から聞いた、自国の良いところと課題について、写真を見せながら紹介する。

教材C 写真・エピソード

エルサルバドル人が思う自国の「誇り」(☆)と「残念」(★)

- ☆自然が豊か。バナナなど沢山の果物、森や花。
- ☆日本と似ていてエルサルバドル人もよく働く。
- ☆いつでも家族のことを一番に考え、家族を大切にしている。
- ☆知らない人同士でもお互いに助け合える。
- ★ギャング社会で子どもたちを巻き込もうとしている。
- ★ゴミが道端に多く落ちており、悪臭がすることがある。
- ★アメリカへ出稼ぎに行く若者が多い。
- ★コーヒー農園で葉が病気になる収穫に影響が出ている。

★マトリックス P.60

⑥ 訪問国と日本の「誇り」と「残念」を、マトリックス表に書き込み、発表する。



●訪問国については⑤で聞いた話を基に、日本については自分たちのもつ情報や思いを基に、協力して半模造紙のマトリックス表に書き出す。

⑦ 訪問国と日本の「誇り」または「残念」に共通することを考え、発表する。



●⑥のマトリックス表を見ながら、「誇り」と「残念」について、訪問国と日本に共通することを話し合い、全体で発表する。

⑧ ここまでの活動を通して、気づいたことや感じたことを発表する。



	誇り	残念
訪問国		
日本		

# アクティビティ つながり・共通性 2-4

## 人の思いや技術による支え合いで 世界はつながっていることに気づくアクティビティ 人がつながる国際協力



ねらい

⑥訪問国の人々のために活躍する人の気持ちや活動内容について知り、よりよく変えようとする、そのために協力しあうことが大切だと気づく。

内容  
(素材)

海外で収集した素材を生かした教材見本

教材A 「テーマ」「人」「状況」の4セットの写真(カード)



教材B 「たいへん」な現状や問題解決に関わる人や活動についてのエピソード

「水がたいへん！」…写真は、サンパウロのある地区での水道管の様子と日本から技術支援に来ている下村さんです。1つの水道管に別の水道管がたこ足状につけられています。それによって水道メーターを通らないため、水道水として管理することができません。このようにして水が盗まれている現状があります。また、水道管が十分にメンテナンスされていないため、漏水も大きな課題になっています。このように、漏水や盗水、メーターエラーで無駄になっている水、収入にならない水のことを「無収水」と言います。埼玉市で漏水や無駄になっている無収水は5.5%ほどなのに対し、サンパウロでは、40%の無収水(漏水25%、メーターエラー11%、盗水6%)がありました(2009年)。このような現状を改善するため、2006年から、日本の技術協力として「無収水管理プロジェクト」が行われています。JICAから専門家として派遣されている下村さんは、無収水管理の真の意味と重要性を理解してもらえるよう活動しています。

教材C JICA海外協力隊、JICA専門家などに対する一問一答形式のインタビュー動画

◆インタビューの内容(参加の動機、活動内容、やりがい・苦労したこととそれをどう乗り越えたか、子どもたちへのメッセージなど)を明確にし、一問一答形式3分程度で収録できるように準備する。  
◇写真は、カードの組合せの視点を想定し、関わる人のアップ写真、関わる人と課題とのつながりがわかる写真、課題となっていることや現状が分かるような写真などを意識して撮る。  
◇インタビュー動画は、プロジェクトの説明の時間には取りにくいので、食事の前後、バス内での待ち時間などわずかな時間、あらゆる機会を利用して、声かけをして積極的に集めるとよい。音声聞き取りにくいことが多いので、場所や相手との距離を考え、しっかり録音できるようにする。

付属教材

教材D インタビュー動画についてのワークシート →次ページ参照

教材E 国際協力に関わる仕事への適性診断チャート →42ページ参照

アクティビティの  
ねがい

国と国のつながりをたどっていけば、そこには必ず人と人の草の根のつながりがあります。そういった一人ひとりの人のもつ思いや技術を通じて、訪問国と日本とのつながりを理解するアクティビティです。つながりの尊さ、大切さに気づくことで、学習者が将来の国際的に協力しあう人になるようとするキャリア意識が芽生えることもあるかもしれません。キャリア教育の一環として行うことも可能です。

活動の  
流れ

学習者の活動内容 [●…活動詳細、\*…Fの留意点]

教材・手法



① 訪問国に関する12枚のカードを、「テーマ」「人」「状況」で組み合わせる。

●テーマ…森、水、生計、治安、人…訪問国でそのテーマについて課題解決に関わる人の写真、状況…現状に関する写真 12枚を、グループで話し合いながら、3枚ずつ組み合わせる。

\*扱う課題の全体像を把握するために、導入として行う。時間がなければ2から始めてもよい。

教材A 写真

★マッピング P.59



② 1人1セットを担当し、「たいへん」な課題に関わる人や活動についての解説を分析する。

【発問】「組み合わせた4セットから1つ選び、担当分の資料を読んで、後で他のメンバーにカードを使って伝えられるように、次の観点から分析しましょう。」

●分析の視点…①課題となっていること、②課題に関わる人の名前や立場、③課題解決に役立っている日本の人や技術、④どんな変化があったか

※4つの視点について、資料に下線と番号を付けるとわかりやすい。

教材B エピソード



③ 自分の担当した「人」と「状況」の写真を見せながら、その人になりきって、分析した内容を発表する。

\*準備の時間を1分程度取ってから始め、1人2分で他のメンバーに説明する。

★ロールプレイ P.60

★ジグソー法 P.60



④ 課題解決のプロジェクトに携わっている人の思いや活動の様子を聞き、振り返る。

【発問】「現地で、写真の現場で活動している人たちに会って来ました。それぞれの活動内容や思いを現地で撮ってきた動画で聞いてみましょう。」

●JICA海外協力隊、JICA専門家などから現地で行ったインタビューを動画で見る。(1人3分程度)

●インタビューを聞いて、気づいたこと、感じたこと、考えたこと、疑問に思ったことを、都度および見た後にワークシートに書き留める。

\*Fが現地で出会って感銘を受けたことやすごい!と思ったことをFの言葉で補足すると学習者にも伝わりやすい。

教材C インタビュー動画

教材D ワークシート

- ①気づいたこと
- ②感じたこと
- ③疑問に思った&さらに知りたいこと



⑤ 国際協力に関わる仕事への適性診断チャートを各自行い、各仕事の概要を読む。

\*「国際協力には、国だけでなく、さまざまな組織、団体、機関、そして市民が関わっていることに気づき、将来の自分のキャリアの選択肢の1つになりうることを知る。

\*自分の結果の仕事内容だけでなく、他の仕事内容についても読むように促す。

\*JICA海外協力隊の職種リストを見せて、関心があるものを選び、具体的にどんな仕事かウェブサイトで調べてみる方法も考えられる。

教材E チャート



⑥ ワークシートに書いた内容を発表する。

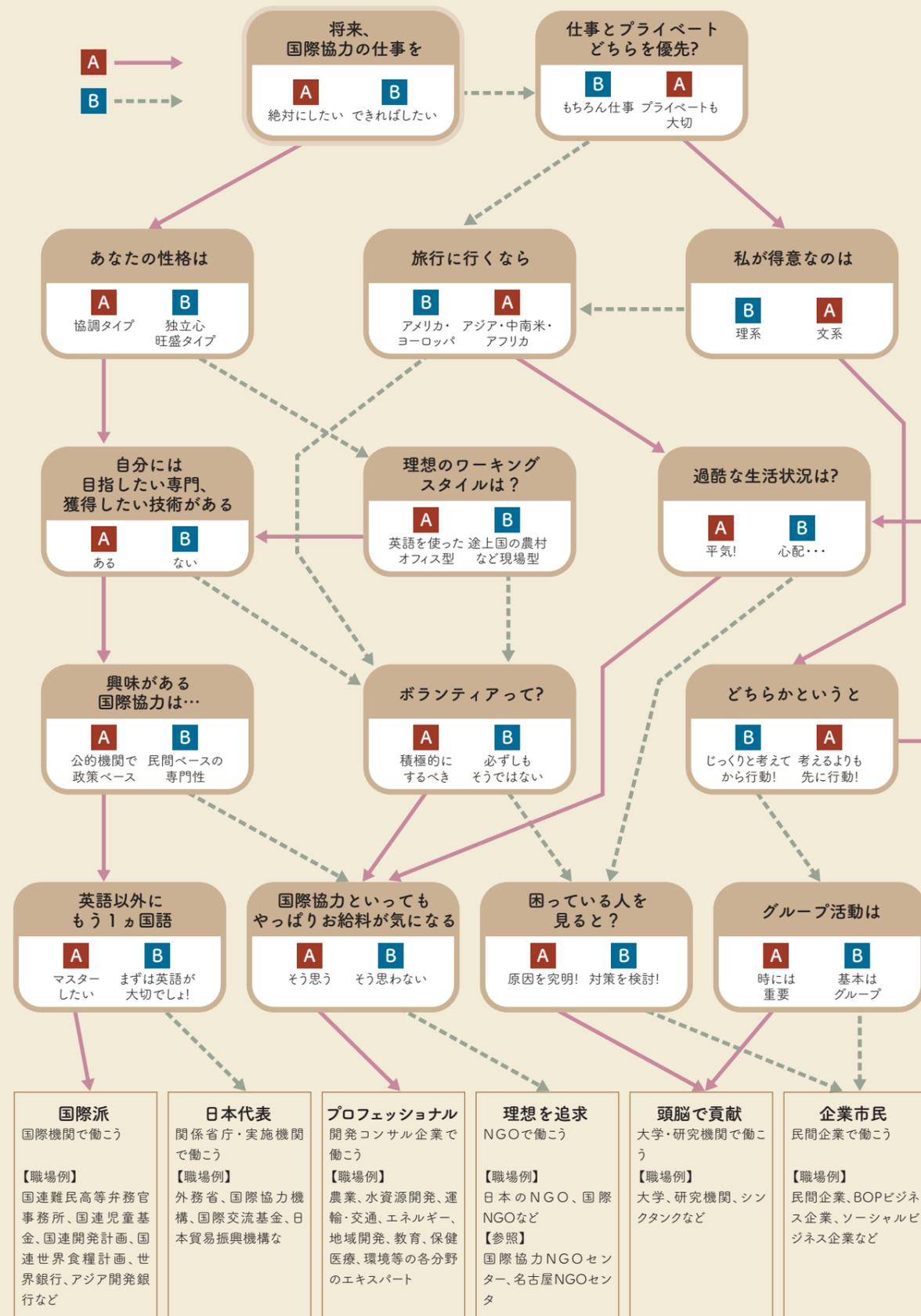
●グループで発表しあい、全体で何人かに発表してもらう。

\*最初に適性診断チャートの結果分布を挙手で尋ねて共有するとよい。

\*疑問に思ったことに対しては、わかる範囲でFが答えるとよいし、もっと知りたいことから、次の調べ学習につなげてよい。

【感想例】

「みんな自分の仕事に対して本当に強い思いを持っている。その仕事に就けたから終わり、じゃなくて『もっとよくして行きたい』という夢やその仕事に関して自分のやりたいことがあった。だからこそスペシャリストのみなさんは、精一杯がんばれると思いました。苦労もあるけど、それに打ち勝つことができるのは、夢があるからだと思う。」



出所：『国際協力NEWS 2009年10月号』株式会社国際協力ジャーナル社

### 3. 柱3 人類共通の課題を共に考え共に越えるアクティビティ集

#### 1) 柱3の考え方とポイント

柱3で扱う人類共通の課題は、大きく人権系と環境系の課題に分けられます。具体的には下図のSDGsも参照しつつ、訪問国ごとに定められている日本の国際協力の重点分野も押さえつつ取り組むとよいです。



**People 人間**  
すべての人に焦点を当てる

**Planet 地球**  
地球を守る

**Peace 平和**  
平和で公正な社会を育む

**Prosperity 繁栄**  
豊かな生活を確保する

**Partnership 連携**  
あらゆる関係者と連携する

柱3のアクティビティは、訪問国が抱える人類共通の課題に関して、P.8で示したように学習者の行動変容につなげていくことをめざします。そのため柱3のアクティビティ集は、単発のアクティビティではなく、いくつかのアクティビティを下図のように意図してつないだ「流れのあるプログラム」としています。

- ① 課題の現状 ▶ ② 影響・重大性 ▶ ③ 背景・原因 ▶ ④ 課題解決策 ▶ ⑤ 計画・宣言

また、柱3の各アクティビティは、所要時間を最小限に収めるため、課題にフォーカスした流れになっています。しかし、より身近に自分事として課題を捉えるうえで、課題ばかりではない訪問国の多様な面を理解し肯定的に出会っておくことが大切です。そのため、各アクティビティを実施するにあたっては、その前段階で、時間が許す限り、柱1や柱2に相当する学習やアクティビティを行うことを強く勧めます。

#### 2) 柱3の各アクティビティの特徴一覧

柱3の各アクティビティについての「ねらい・内容(素材)・手法」を中心に俯瞰した一覧表を示します。

No.	主な内容	対象 所要時間	ねらいの要素と 活動の特徴	海外素材	参加型手法	原案作成者 訪問国
3-1	地球の未来を明るくする一人ひとりの小さな行動	小学校 低学年 45分	小学校低学年が、訪問国の課題を自分事として捉える方法を提供するプログラム	写真	クイズ フォトランゲージ 派生図	宮嶋いずみ (小学校) パラグアイ
3-2	世界の課題を知ろう! 気づこう! 考えよう!	小学校 高学年 70分	訪問国の課題を世界の目標SDGsに照らし合わせながら考えるプログラム	写真 エピソード	派生図 マッチング ランキング	近藤勝士 (小学校) エチオピア
3-3	女の子なんか生まれなきゃよかった…。	中学・ 高校生 100分	ロールプレイで人権問題の背景を理解し、自分たち意識もふり返り、手立てを考えるプログラム	写真 エピソード	ロールプレイ 因果関係図 マッチング	前田昌美 (高等学校) バングラデシュ
3-4	貧困をなくす一歩を踏み出そう!	中学・ 高校生 100分	貧困の原因を断ち切る視点で解決策を考え、社会的アクションの視点で行動に移すプログラム	写真 エピソード	対比表 因果関係図 マッチング	山本孝次 (高等学校) フィリピン

# アクティビティ 課題解決・行動 3-1

## 人の思いや技術による支え合いで 世界はつながっていることに気づくアクティビティ 地球の未来を明るくする一人ひとりの 小さな行動



ねらい

⑧訪問国における生活や社会のあり方から日本の課題をふり返り、訪問国から学び、日本や自分にもできることを考える。

内容  
(素材)

海外で収集した素材を生かした教材見本

教材A 訪問国の問題だと考える写真1枚、素敵だと考える写真3枚（割愛）

問題と考える写真

食べ物の袋や家を出たごみが川にポイ捨てされている。



教材B 問題だと考える写真についての説明・追加写真



ごみが道端に山積み  
に放置されている(左)。捨  
てられたごみの近くに住  
む人がいる(中右)。

教材D 問題に対する現地の対策の写真



幼稚園で、親がポイ捨  
てしていることがあ  
り、子ども達にポイ捨  
てはいけないこと、ポ  
イ捨てをすると川が汚  
れ、いずれ海に流れて  
しまうことを伝えてい  
ます。



使える物は、リユース  
して使っています。  
ペットボトルに水を入  
れておくと、水が必要  
になったら、自然と土  
がすってくれるそう  
です。

工夫・留意点

- ◇問題が分かりやすい特徴的な写真を撮る。
- ◇よく似た日本国内や身近なところでの写真があれば用意しておくとい。
- ◇問題だと思うことについては、次の4点セット（①問題の現状、②問題の悪影響、③問題が起きている背景・原因、④問題を解決するため行われている対策）で写真やデータ等を収集するとよい。

付属教材

教材C 問題を放置しておくとうなるかの選択肢 →次ページ参照

教材E 訪問国の問題と同じような身近な日本の問題を表す写真（割愛）

アクティビティの  
ねがい

訪問国における問題を、「あれはダメだね」「日本でよかったね」と他人事のように評論するのではなく、同じような問題が自国や自分たちの身の回り（家庭や教室）にもないか足下を見つめ、自分事としてできることを考え、行動に結び付けていくことが大切です。問題の様子は違っても、その根底に流れる背景・原因や解決方法は、実は同じである場合も多くあります。低学年において、現地素材と結びつけながら学びの柱3を考えるアクティビティの進め方の例です。

活動の  
流れ

学習者の活動内容 [●…活動詳細、\*…Fの留意点]

教材・手法

3分  
個人

① 4枚の写真の中から、現地の人が問題だと考えていると思う写真を選ぶ。

【発問】「どの国にも、その国に住んでいる人が自慢できることと、問題だなと思っている事がありますが、今から見る4つの写真の中で、「これは問題だな。なんとかしたいな」と思っている写真はどれでしょう。」

\* 黒板にA3サイズの写真を貼りだして(拡大映像投影でも可)、挙手で選んでもらう。

教材A 写真

★クイズ  
★フォトラングージ P.58

7分  
全体

② 写真を選んだ理由を聞き、解答とその説明を聞く。

●改めて選んだ理由を何人かに聞き、Fが問題だと思った写真(解答)についての説明を受ける。

- \* 学習者は写真のどの部分に着目するか分らないため、Fが意図していない写真が選ばれることもあるが、それも肯定的に受け止めると同時に、今回は問題とする写真について考えていきたいことを告げる。
- \* 説明を補足するために、問題に関連する写真を見せてもよい。
- \* 時間が限られている場合は、最初から問題だと思う写真を見せて、「どこが問題だと思う？」という発問から初める方法もある。

教材B エピソード・写真

5分  
グループ

③ この問題が放置されるとどうなるか考える。

【発問】「この写真のような問題をこのまま何もしないで放っておくと、町ではどんなことが起こるでしょうか。選択肢の中から選んでみよう。」

●提示する教材Cのような(悪)影響の選択肢から、どれが起きると思うかを話し合い、○×をつけて、解答を聞く。

- \* 影響については、現地で聞いたことでも、経験的に考えられる影響についてでもよい。
- \* 学齢期に応じて、自由に考えて発表してもらい、グループ内で派生図で出し合った後に発表してもらい、選択肢を選んだ後に「他にはないか」とさらにアイデアを聞きやり方でもよい。

教材C 選択肢

- ( ) 町がゴミだらけになってしまう。
- ( ) でんせんびょうがはやる。
- ( ) 人がすむところがなくなる。
- ( ) 川やのむ水がよごれてしまう。
- ( ) その他( )

★派生図 P.60

5分  
個人

④ 問題解決のため現地でされている対策について知る。

【発問】「では、この問題をなくすために、実際にこの町で行われていることはなんですか。選択肢の中から選んでみよう」

●板書などで提示する対策の選択肢に対して、挙手で聞く。

●実際にFが見聞きした対策について、写真を見せながら説明する。

教材D 写真

10分  
全体

⑤ 問題を一般化し、身の回りや日本でも同じ問題がないか考え、発表する。

【発問】「似た問題は、身の回りや日本にはありませんか？」

\* 自分の身の回り、クラスではどうか、テレビで見たものはないか等のヒントで思考が深まる。

\* 学習者が出すと思われる答えに沿って提示すると小学校低学年でもイメージが湧きやすい。

教材E 写真

- 同じ問題想定例
- ・道路分離帯ポイ捨て
  - ・お祭りの後のゴミ箱が溢れている
  - ・コンビニのゴミ箱に家のゴミを捨てる
  - ・野球観戦後にゴミを置いたまま帰る
  - ・教室にゴミが落ちていても踏ぐだけ
  - ・消しゴムかすを床に捨てる
  - ・給食をいっぱい残す

15分  
グループ

⑥ 身の回りや日本での同じ問題を解決するために、自分たちにできること、自分がやろうと思うことを考え、発表する。

【発問】「○○問題を解決するために、自分たちにできることは、ありませんか？考えましょう。」

●グループで話し合い、出たアイデアを発表する。板書されたアイデアの中から自分がやろうと思うことを紙に書き、グループ内で発表する。

【感想例】  
「協力してそうじをする」「ごみを出さないようにする」「ごみが落ちていたら自分から拾う」「リサイクルできる紙はボックスに入れる」「ものには名前を書く」

# アクティビティ

## 課題解決・行動 3-2

### 訪問国の課題を世界の目標 SDGs に 照らし合わせながら考えるアクティビティ

# 世界の課題を知ろう!気づこう!考えよう!



ねらい

- ⑦訪問国が抱えている課題の現状を知り、課題を放置しておくことの影響を考え、自分のこととして捉えられるようになる。

内容  
(素材)

海外で収集した素材を生かした教材見本

教材B 訪問国の課題を表す写真



教材C 課題の状況を表したエピソード

写真はエチオピアで出会った日中に水くみを待つ子どもたちです。途上国では、水くみは子どもたちの仕事であることが多いのは事実です。それが理由で、学校に通えない子どももいます。また、水をくむのもただではなく、写真のように管理している人にお金を払って、ジェリカンというポリ容器に入れるという形も多いです。そして、一生懸命運んだ水も、衛生的ではないためにその水が原因で命を落とすこともあります。安全な水へのアクセスは容易ではないのがエチオピアの現状です。

教材D 世界の数的クイズ



教材E 訪問国での教材Bの課題に対するJICAの取り組み



【教材Eのエピソード】…農家を訪問した時に、以前使われていた井戸を見せてもらいました。掘りが浅い上にゴミが入りやすく、黄色いバケツの中に汲む水はあまり衛生的とは言えないものでした。また子どもや山羊が井戸に落ちる事故がよくあったそうです。そこでJICAが「飲料水用ロープポンプ」を各地域に普及させていくプロジェクトを行いました。取っ手をぐるぐる回すと水がくみ上げられる仕組みで15mの地中から水をくみ上げられます。ポイントは・安く簡単に作れる、現地の人が作ったり直したり出来る。立派な水道を作るという援助をしても壊れてしまい誰も直せなかったら、援助が終了した後は無用の長物になりかねません。(持続可能な援助)

工夫・留意点

- ◇訪問国の課題を表している写真は、課題の部分が明確に分るよう意識して撮影する。
- ◇訪問国の課題の現状やデータ、課題に対する取り組みを自分なりに整理できるように見聞きます。
- ◇訪問国の数字に関するデータは、JICA在外事務所からできるだけ最新のものを聞くとよい。
- ◇教材Dで、訪問国におけるデータがあるか、現地JICA事務所で聞いてみるとよい。
- ◇教材Eは、既存の情報をベースに、現地で見たり聞いたりしたことに加えて作成するとよい。

付属教材

教材A SDGsカード17枚 (アイコンとその目標や現状についてわかる情報)

※JICA九州『知ろうよ!SDGs×JICA』の各シートが有用(ウェブからダウンロード可)

教材F ワークシート「持続可能な未来を実現する9つの方法」→P.52参照

アクティビティの  
ねがい

訪問国の課題とSDGsとの関係について理解を深めるアクティビティです。SDGsを取り扱うことで、訪問国の課題が一国にとどまらない世界的な課題であること、決して対岸の火事ではなく自分たちにも関係のあるものであると気づくことをねらいとしています。また、SDGsのそれぞれの目標は単独で存在するわけではなく、相互に関連しており、そのため一つの目標だけが達成されればよいものではないことも考えていけるとよいでしょう。

活動の  
流れ

学習者の活動内容 [●…活動詳細、\*…Fの留意点]

教材・手法



① 世界が課題解決に向けた目標としている SDGs の各目標について分担し把握する。

- 配られた SDGs カードを全部取り終わるまで順番に1枚ずつ取り、カードの裏に書いてある説明を読んで、自分が責任をもつマイカードとする。マイカードは5まで保持する。
- 一番気になるカードを1枚選んで紹介し、その理由も発表する。

教材A カード



② 1枚の写真に関わる世界の数的クイズから訪問国の課題となっていることを知る。

- 写真を見て、その写真に関係する課題についての訪問国の現状(課題)についての説明を聞くとともに、その課題に関わる世界の数的クイズを各自で解き、その解答・解説を聞く。

教材B 写真

教材C エピソード

教材D 数的クイズ

- \*世界の数的クイズは、写真に関わる課題に関連する複数のトピックについて、国連のデータなどを基に作成する。訪問国の情報を基にした数的クイズを含めることができればよりよい。
- \*日本にも影響が及ぶと考えられる課題を意識して用意するとよりよい。



③ 教材Bの写真に関連する主な問題点を明らかにする。

- 教材Bの写真を、半模造紙の中心に貼り、その写真が示している2で取り上げた問題点を周りに書き、丸で囲む。

★派生図 P.60



④ 主な問題点を放置しておくとうなるかを考え、派生的で書き出す。  
【発問】「写真の主な問題点を放置しておく、どんなことが起こるでしょう。写真の周りの先ほど書いた主な問題点から矢印を出して、その影響についてどんな書いていきましょう。」

- \*派生図の解説にあるように、7つ以上上げ、3つ以上深める(つなげる)といった数字を示すとより多様な視点で考えて書くことにつながる。
- \*輸入作物などに関わる課題の場合は、影響のうち、日本に住む自分たちにも関わるとするものに、☆印を付けると、自分との関わりに気づける



⑤ 派生結果のうちSDGs各目標に関わるものを多く見つけ、番号を書き加え、共有する。

- 自分が担当したSDGsカード(マイカード)に関わる結果がないか探す。
- \*番号を書くだけでなく、当てはまったSDGsカードを模造紙の周りに置くと分かりやすく、また視覚的にも一つの課題が多くのSDGsカードに関わるのが実感しやすい。
- 模造紙を回し読みして、他のグループの成果を共有する。

★マッチング P.59



⑥ SDGsの目標達成や課題解決のために、訪問国におけるJICAやNGO等の取り組みを知る。

- JICAやNGO等の取り組みを説明した資料について読む。
- 派生結果のどこに関連する取り組みかを考え、更に、SDGsのどの目標に関わるか確認する。

教材E 写真・エピソード



⑦ 訪問国を含む世界の課題解決=SDGsの目標を達成するために一人ひとりの行動に必要なことの優先順位を考え、発表する。

- 一人ひとりが行動できる「持続可能な未来を実現する9つの方法」について、各自自分が考えた基準でダイヤモンドランキングを行い、ランキング結果とその基準を発表する。→P.52参照

教材F ワークシート

★ランキング P.58

- \*各自の意識や行動が社会をよりよく変えていくことに気づくと他人事が自分事に近づく。
- \*ランキングを基にした各自の「行動宣言」を考え、発表・共有できるとよりよい。

# アクティビティ

## 課題解決・行動 3-3

### ロールプレイで人権問題の背景を理解し、自分たち意識も振り返り、手立てを考えるアクティビティ

## 女の子なんかに生まれなきゃよかった…。



### ねらい

- ⑦訪問国が抱えている課題の現状を知り、課題の背景や原因を探究する。また、よりよい未来や課題解決のための手立てを考える。
- ⑧訪問国における生活や社会のあり方から日本の課題をふり返り、訪問国から学び、日本や自分にできることを考える。

### 内容 (素材)

海外で収集した素材を生かした教材見本

教材A **バングラデシュの早婚問題（ロールプレイの背景エピソード）** →P.53参照

教材B **ロールプレイの進め方**      教材C **ロールプレイの役割カード** →P.54参照

教材D **訪問国の課題（早婚の実態やジェンダー不平等）についてわかる写真・エピソード**



家の中ばかりにいた。外に出られなかった…。少女グループエンパワーメント活動に参加していた少女の一言が衝撃的だった。この少女はエンパワーメントの活動で学校にも行き始め、自分の意見を持ち、夢を語るようになった。もし、そうでなければこのバングラデシュの明るく青い空の下で古い慣習に従うだけの、希望も夢もない一生を過ごしていくのだろうかと思った。

教材G **バングラデシュにおけるジェンダー不平等を正するためのアプローチ（写真・エピソード）**

#### マイクロクレジット活動

村の女性たちは、マイクロクレジットでお金を借り、夫にリキシャを買ったり、コメや養鶏場を作ったり生活の向上を図っている。ここではマイクロクレジット活動は女性限定であるので、夫をはじめ男性が女性に一目置くようになり、家庭の中で女性の地位が高まったという。お店を始めたりする女性もいて、子どもの教育や家の立て直しなどにお金をかけることができ、人としての尊厳を取り戻して生き生きと積極的に生きることを可能にしている。



#### 少女エンパワーメント活動

シャプラニールの現地NGOパプリ。早婚など親の代からの悪い習慣を断ち切るには10代の女の子の教育は重要だ。この村でも2人早婚をした女の子がいるという。パプリは整理整頓・栄養について・教育の大切さなど多岐にわたり少女達に教えていた。少女たちは自分の意見をしっかり言い堂々としていた。この活動のおかげで「何がよくて、何がいけないことなのか」がわかった。」と語った。



#### 工夫・留意点

◇問題には多様なステイクホルダー（利害関係者）が関わっており、それぞれに立場や価値観が異なっている。そのどこに問題があるのか、問題を作り出す背景には何があるのかに気づくと解決の糸口が見えてくる。そこで役立つのがロールプレイという手法。異なる立場になりきり、課題のある現状を演じることで問題は何かに気づくことができる。現地研修でロールプレイにできそうな事例があれば、それを念頭におき情報を収集してこれるとよい。  
◇課題の状況やデータは、現地に行ってみると必ずしも現状と一致しないこともある。不一致の原因を明確にできれば、より現状に則した訪問国を理解することに役立つ。

#### 付属教材

教材E **ジェンダー平等度の世界データ** →P.55参照

教材F **ガルトゥングの構造的暴力** →P.55参照

### アクティビティの ねがい

男性の権利も女性の権利も人権。ジェンダー不平等は人権問題であり、人の命と尊厳に関わる重大な問題であることに気づくアクティビティです。未だ女性の権利が著しく不平等な状況にある世界で、SDGsのゴールにもあるジェンダー平等を達成していくためには、不平等を作りだしている社会の構造とその構造を支えている人々の意識を変えていく必要があります。私たちの中にもある差別意識や偏見、すり込まれた慣習、諦めが問題を作り出す構造を支えていることに気づき、いかにそこから脱学習できるか、鍵は教育にあります。

### 活動の 流れ

学習者の活動内容 [●…活動詳細、\*…Fの留意点]

教材・手法



5分  
個人

① 訪問国が抱える課題である「早婚問題」とは何か、事例を読んで把握する。  
【発問】「社会的、文化的、宗教的背景によって、女性が不平等に扱われている国はたくさん存在しています。訪問国の課題の1つである「早婚問題」の事例の資料を読んでみましょう。」

\*女性が不平等に扱われている国では、女性の発言権、財産を持つ権利、教育を受ける権利、収入を得る権利、社会参画や医療を受ける機会などが奪われていることを補足で説明するとよい。

教材A **エピソード**



20分  
グループ

② 「早婚問題」に直面する少女と取り巻く人々の考えや気持ちを、ロールプレイで体感する。  
【発問】「今読んだ早婚の事例を、1人ひとり登場人物になりきってロールプレイをしてみましょう。」  
●詳細は、教材B、教材C参照。

教材B **進め方**

教材C **役割カード**

★ロールプレイ P.60



7分  
グループ

③ ロールプレイの「早婚問題」に対し、感じたこと、わかったこと等を話し合い、発表する。

\*早婚は女の子に対する人権侵害であることを認識できるとよい。

教材D **写真・エピソード**



7分  
全体

④ 訪問国の早婚の実態とジェンダー不平等について知る。

\*Fが写真やエピソードを用いて解説する。

教材E **データ資料**



5分  
全体

⑤ 日本と世界のジェンダー不平等について知っていることを出し合い、データで確認する。

- 日本や世界にもあるジェンダー不平等について知っていることを出し合う。
- 日本と世界のジェンダー不平等に関するデータ資料を見ながら、説明を聞く。

★因果関係図 P.61



10分  
グループ

⑥ 世界のジェンダー不平等の象徴的指標を知り、その原因や背景を因果関係図で探る。

- 世界のジェンダー不平等の象徴的指標と数値として、次の3つを紹介する。
- ①「非識字率」世界の非識字(読み書きができない)人口の3分の2が女性。
- ②「早婚率」途上国の女の子3人に1人が18歳未満で結婚。
- ③「DV率」世界中の4人に1人の女の子が身体的暴力を受けたことがある。

教材F **定義**



14分  
グループ

⑦ 構造的暴力と文化的暴力について知り、早婚問題の背景や原因を分析し、発表する。

【発問】「(構造的暴力、文化的暴力の概要説明後)因果関係図で書き出した原因の中で、「文化的暴力(意識・考え方)」だと思うものに○をつけてみましょう。」  
●上記発問に伴う活動後、模造紙を回し読みし、気づいたことを数人に発表してもらう。

\*自分たちの中にも、無意識の文化的暴力はないか、ふり返る機会になるとよい。



15分  
グループ

⑧ ジェンダー不平等を是正するために、役立つことや必要なものを考える。

●ジェンダー不平等を作りだしている原因や背景のうち構造的暴力と文化的暴力の2つのアプローチから話し合い、必要なものや役立つことを付箋の色を分け書き出し、因果関係図に貼る。

教材G **写真・エピソード**

★マッチング P.59



10分  
グループ

⑨ 訪問国における解決策について知り、自分たちが足下から変えられることを考える。

【発問】「訪問国で実際にジェンダー不平等を是正するために取り組まれているカードを読み、どの原因に対する手立てかを考え、因果関係図に置いてみましょう。また、日本のジェンダー不平等を是正するために、自分たちができることは何かを話し合ってみましょう。」



7分  
全体

⑩ 今日の気づきと自分の身近なところからしたいことを発表する。

●各自、ここまでの活動を行って気づいたこと、ジェンダー不平等をなくすために自分の身近なところからできることを用紙に書いた後、希望者数人が全体で発表する。

# アクティビティ 課題解決・行動 3-4

## 貧困の悪循環の原因を断ち切る視点で解決策を考え、 社会的アクションの視点で行動に移すアクティビティ 貧困をなくす一歩を踏み出そう!



### ねらい

- ⑦訪問国が抱えている課題の現状を知り、課題の背景や原因を探究する。(日本や自分にも関わりがあることに気づく)
- ⑨訪問国や日本の課題について考えることを通して、一人ひとりの力が社会や世界を変える可能性に気づき、社会参画する力を身に付け、行動に移せるようにする。

### 内容 (素材)

海外で収集した素材を生かした教材見本

教材A 訪問国と日本の違いについて書いたカード9枚 →残りのカードP.56参照

- |                                                          |                                                                   |                                                          |                                                      |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| ①フィリピンのジョセフ君13歳は家の手伝いのため学校に行っていないが、日本のA君13歳は毎日中学校に通っている。 | ②フィリピンのニコール君9歳は家の収入が少なく不十分な食事で栄養失調気味であるが、日本のE君9歳はお腹いっぱいのお食事をしている。 | ③フィリピンのアンジェロ君15歳は焼いたバナナを食べることが多いが、日本のG君15歳は生のまま食べることが多い。 | ④フィリピンのアリッサさん16歳はおしゃれのためピアスをしているが、日本のFさん16歳は校則でできない。 |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|

教材B 訪問国の課題についての写真・エピソード (パヤタス地域の人々の生活)



廃品回収で得たプラスチックや廃材などの資源を換金することにより収入を得ている人びとの多くは、法定最低賃金 (マニラ首都圏で575ペソ) の 1/4 程度の収入しか得られず、一日に三回の食事ができず、極度の栄養失調の状態にあることが少なくない。電気や上下水道などの社会インフラ設備や公共サービスへのアクセスも安定しておらず、さらに劣悪な衛生環境が住民に深刻な健康被害をもたらしている。

- ・1日働いて50ペソの現金収入
- ・両親で働いて1日100ペソ
- ・家族5人2日分の水代が50ペソ
- ・借家は月に500ペソの部屋代
- ・それでも農村で働いていた時の10倍近い収入がある ※1ペソ=約2.5円

教材D 課題に取り組むJICAやNGOの活動を紹介するカード →P.56参照

### 工夫・留意点

- ◇貧困の悪循環を授業で行うことを想定する場合は、悪循環を断ち切る箇所ごとに具体的にどのような支援策が行われているか、という視点で話を聞くとよい。
- ◇課題に対する支援策は、JICA (政府)、NGO、企業 (民間) など幅広く集めるとよい。

### 付属教材

教材C 「貧困の悪循環」カード8枚 →P.56参照

教材E 4つのソーシャルアクション →P.56参照

### アクティビティの ねがい

「貧困の輪」という既存アクティビティに訪問国の情報を加えて作った貧困問題について考えるアクティビティです。貧困は、社会構造が作りだした問題でもあり、SDGsゴール1に掲げられている世界共通の課題です。貧困に苦しむ人々は決して怠惰のためにそうなっているわけではなく、貧困の悪循環に一度はまるとなかなか抜け出せないことが背景にあります。貧困という大きな課題の前でも私たちは決して無力ではなく、自分にもできることがあるのだという気づきと自己効力感をもって終わることができることを期待します。

### 活動の 流れ

20分

グループ

↓

全体

学習者の活動内容 [●…活動詳細、\*…Fの留意点]

教材・手法

- ① 全9枚のカードに書かれた内容についての是非と基準を考え、発表する。  
【発問】「配られた9枚のカードに書かれたフィリピンと日本のちがいを読んで、グループで話して、①あってよいちがいがい、②あってはいけないうちがいがい、③どちらでもない、の3種類に分類してください。分類の際には、どういう理由や基準で分類したかも話し合ってください。」  
●グループで話し合い、その結果と理由や基準を、付け足し方式で、全体で発表する。

教材A カード

★対比表 P.58

- \*できるだけ、「あってよいちがいがい」または「あってはいけないうちがいがい」に分けるように伝え、「どちらでもない」としたカードの論点を掘り下げることにつながる。

- ② ゴミ山で働き生計を立てている家族の生活についての写真を交えた説明を聞く。  
\* Fが訪問したフィリピンのパヤタス地区に、活動1で「あってはいけないうちがいがい」に分類されたような子どもたちが多く生活していたことを伝え、前の活動と関連づける。  
\* 現地で撮影した写真や現場を見たFの感想を交えて説明するとよい。

教材B 写真・エピソード

- ③ 「ゴミ山で働く (貧困)」をスタートとする8枚のカードで「貧困の悪循環」をつくる。  
【発問】「なぜこの人たちはゴミ山で働いているのか、その生活から抜け出せないのか、8枚の貧困の悪循環カードをつなぐことで考えてみましょう。」  
●「貧困」カードをA3用紙の上部中央に置き、そのカードを出発点に残り7枚のカードがどのように繋がっていくか、因果関係を考えて右回りの円に並べ、原因から結果へ矢印を記入する。

教材C カード

★因果関係図 P.61

- \* 8枚の「貧困の悪循環カード」はどのカードも他のどれかのカードの原因であり、同時に結果でもある。このカードの繋がりは考え方によって様々であり、正解はない。

- ④ ここまでの感想を共有する。  
●他のグループの「貧困の悪循環」を見て回った後、全体で何人かに感想を発表する。  
\* 貧困からスタートして一周して戻ってきた貧困は元の貧困よりさらに程度が酷くなっている場合が多い。親から子へ繋がっていく悪循環でもある

- ⑤ 貧困の悪循環を断ち切るには、どこをどんな方法で断ち切るのがよいか、考える。  
【発問】「貧困のマイナスの連鎖を断ち切るには、どのような支援が必要でしょうか。」  
●③で作成した「貧困の悪循環」を見て、断ち切れると考える悪循環の矢印にクサビを打ち、その横に支援内容を記入する。

教材D カード

★マッチング P.59

- ⑥ 実際に行われている支援の事例カードを読み、「貧困の悪循環」へ貼り、発表する。  
\* 発表の2グループ目からは、貼った位置が違ったカードについて、理由を発表してもらおう。  
\* 紹介する活動が全てではない。この後の流れで自分だったらどうするかを考えていくと良い。

教材E 観点(補助線ヒント)

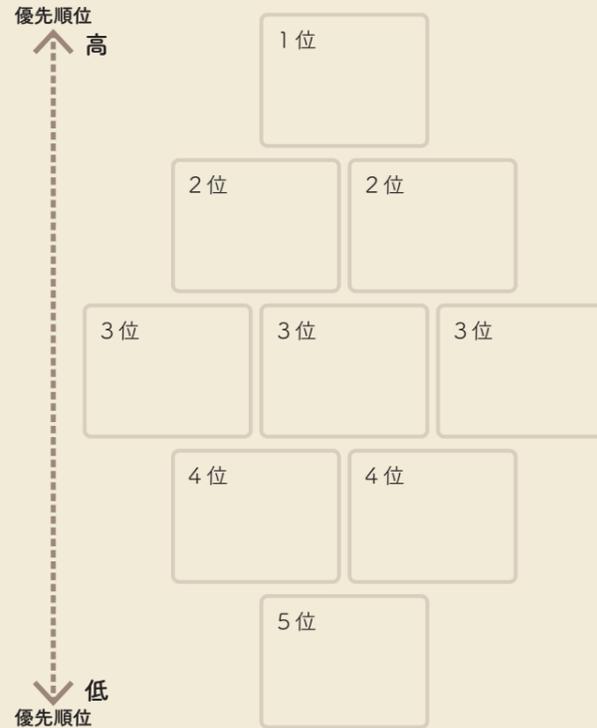
- ⑦ 「貧困」解決のためにできることを、4つのソーシャルアクションの観点で考え、発表する。  
●ソーシャルアクションの観点 (①現場、②政策、③場づくり、④自分自身にアクション) を基に、貧困解決のために自分ができることを考え、A4用紙に書き出し、発表する。  
\* 「貧困」解決のためにできることでよく挙げられる「募金をする」だけではない自分に「できること」を考える助けとして、こうした観点があることを知り考えることが大切である。

- ⑧ ここまでの活動を通して、一番の気づきをふりかえり、行動宣言とともに発表する。  
●自分が考えたことと、他の人が考えたアイデアから、ここまで一番の気づきを自分の行動宣言として、グループ内で発表する (時間があれば、全体で何人かに聞く)。

人類共通の課題を解決し、持続可能な未来を実現するために、私たちにできることはたくさんあります。一人でできること、仲間とできること、直接行うこと、間接的にを行うこと、さまざまです。以下の9つの方法について、あなたが考える優先順位を付けてみましょう。

<進め方> ダイヤモンドランキング

- ① A～Hの「方法」を読んで理解する。
- ② A～H以外の自分のアイデアがある場合は、Iの枠の中に書き込む。
- ③ A～Iの「9つの方法」のうち、優先順位の高いと思うものから右図のようにランキングする。
- ④ なぜその方法を優先すべきと思ったのか、理由も併せて、他の人と話し合ってみよう！



<p><b>A</b></p> <p>書籍やネットなどで地球の抱える問題について調べ、現実を知る。</p>	<p><b>B</b></p> <p>問題解決に取り組む団体の講座やイベントに参加し、人々とつながる。</p>	<p><b>C</b></p> <p>寄付やボランティアなどで問題解決に取り組む団体を応援する。</p>
<p><b>D</b></p> <p>世界や地域で、地球の抱える問題解決に向けた直接的な活動を行う。</p>	<p><b>E</b></p> <p>便利さ・効率・利益などを追求する生活のあり方を根本的に見直す。</p>	<p><b>F</b></p> <p>エコでフェアな商品づくりや社会貢献活動を企業に働きかける。</p>
<p><b>G</b></p> <p>日本や地方自治体ができることを提案し、政治を動かす。</p>	<p><b>H</b></p> <p>家庭、地域、学校における教育を通して、行動できる人を増やす。</p>	<p><b>I</b></p> <p>その他の自分のアイデア</p>

<その1> ミリの家族と村の様子

- \* ミリはバングラデシュのとある貧しい村で暮らす15歳の女の子です。
- \* ミリには弟が1人と妹が2人います。
- \* 村には定期的にNGOの現地女性ワーカーがやってきて、女性が学ぶこと働くことの意義を教えてください。
- \* 彼女は、「ミリ、あなたは優秀だから、奨学金をもらって上級学校に行くことができるわよ」と教えてください。

<その2> 将来の夢 VS 女の子の役割

- \* ミリは将来、彼女のようなソーシャル・ワーカーか英語の先生になりたいと思っています。
- \* ミリは勉強が大好きで、その真面目な学習態度で優秀生徒として表彰されたこともあります。
- \* 将来は奨学金をもらって大学に行きたいと思っています。
- \* そんなミリですが、農繁期には家の手伝いや家族の世話で、学校を休まなければならないことがあります。

<その3> 見合い話

- \* ある日のこと、ミリの父親が、隣村の35歳の男との結婚話を突然ミリに持ってきました。
- \* ミリは日頃から早婚はよくないこと（違法）だとNGOのワーカーから聞いていました。
- \* その結婚の話しが自分に来たことに、ミリはショックを受けました
- \* 父親はミリに言いました。「うちは貧乏だ。家族全員を食べさせていくお金がない。学校に行っているおまえを早く嫁に出し、おまえの弟を高校にやらせたい。」

<その4> 村の少女の早婚事情と家族会議

- \* ミリの村には、早婚をした女の子たちが他に何人かいました。
- \* 彼女たちは二度と村に帰ってくることはなかったもので、その後どうしているのかをミリは知りません。
- \* 次の週末、ミリの家族は「家族会議」を開くことになりました。
- \* 家族会議には、NGOのワーカーと、ミリのおじさんも同席することになりました。
- \* 家族会議を前にしたある日、早婚した親友のスリティから、初めてミリに手紙が届きました。



親友 スリティからの手紙

親愛なるミリへ

ミリお元気ですか。早いもので私が結婚して村を離れてから1年がたちました。最初は戸惑うことが多く大変でしたが、私も嫁ぎ先の村にも慣れてきました。実は、少し前に、つらいことがあったので、ミリに手紙を書いています。

嫁いってから、すぐに妊娠しましたが、出産の時の陣痛がひどく、また近くに病院もないので自宅出産をしました。でも残念ながら赤ちゃんは死んでしまいました。ソーシャル・ワーカーさんが言っていたように、私はまだ15歳ですから体が未熟だったのでしょうか。また、栄養も十分に取っていなかったのかこんなことになったのかもしれない。

私は家庭の事情もあり、仕方なく結婚しましたが、ミリは頭もいいし、夢もあるので絶対に早婚はしないでください。都会では、女の子も学校に行って自分の夢を実現している人もいますと聞きました。私も、もっと勉強したかった。先生になる夢も実現できなかった。でもミリには自分の夢をかなえてほしいです。

■モデルアクティビティ 3-3 教材B ロールプレイの進め方 →P.48-49参照

- ① グループで誰がどの役を演じるか決める。  
役割カード(登場人物)は6枚(人分)ある。ミリ、ミリの父親、NGOソーシャル・ワーカーの3役は必須とし、後の3役はグループの人数に合わせて選ぶ。
- ② 自分のカードをよく読み、自分が演じる人の考えや言い分を確認する。
- ③ 父親の次の一言で話し合いを始める。  
「ミリ、この間のお前の結婚の話だが、進めてもいいな」
- ④ 父親の一言の後は、誰が発言してもかまわない(最初は全員が一巡できるとよい)。  
役割カードに書かれていることを一度に全部話してしまうのではなく、一回につき伝える内容は1つか2つに留め、他の人に発言を譲る。他の人の発言を挟めば何度でも発言できる。
- ⑤ 最後は父親の次の一言で終わる。  
もう決まったことだ。それが私たち家族と女であるお前のためだ。」
- ⑥ 全員の役割カードの内容を読み上げ確認する。
- ⑦ ロールプレイをしてみた感想、気になったところなどについて、グループで話し合う。

■モデルアクティビティ 3-3 教材C ロールプレイの役割カード →P.48-49参照

ミリ (15歳)

- \*早婚の問題点(教育の機会・早産の危険性など)を学んで、早婚はしたくないと思っている。
- \*奨学金をもらい大学に行って、もっと勉強したい。
- \*NGOのお姉さんのように将来はソーシャル・ワーカーか英語の先生になりたい。
- \*嫁いだらもう帰ってこれない。
- \*家族と離れたくない。
- \*お金はノクシカタ(伝統刺繍)の内職で稼ぎたい。

ミリの父親 (40歳)

- \*家は貧乏。家族全員養えない。
- \*さみしいが、ミリが結婚すれば経済的に随分楽になり弟を高校までやれる。
- \*ミリは若いし頭もよいので持参金が少なくてすむ。
- \*早く結婚した方が幸せ。この国ではまだ女性が自立して生きるの難しい。
- \*隣村なので自分が時々訪問することができるし、自分の畑を持っている裕福な家庭なので安心。

ミリの母親 (30歳)

- \*ミリはまだ子どもだし、家においておきたい。
- \*早婚はさせたくない。自分も早婚して後悔している。
- \*ミリは勉強が好きで頭もいいので、奨学金をもらい大学までいけるかもしれない。
- \*ミリには夢がある。自分の夢を叶えて、自立して生きてほしい。
- \*隣村の男性には会ったこともなくどんな人か知らないし、20歳も離れていてとても心配だ。

NGOワーカー (25歳)

- \*早婚は女性の教育機会を奪い、自立できなくする。
- \*早婚は違法で出産のトラブルもあり危険もある。
- \*ミリは勉強もでき奨学金で大学まで行きたいと言っている。
- \*彼女が仕事につけば収入が入る。
- \*女子も学ぶ権利、人生を決める権利がある。
- \*ミリとは早婚の問題点をよく話したっており、彼女が無理やり結婚させられるのはかわいそうだ。

ミリの叔父 (50歳)

- \*わたしがミリの縁談を持ってきた。
- \*相手はまじめな男で信頼できる。
- \*このままだと、一家が十分に食べていけないし、弟も満足に学校へやれない。
- \*10代の内が綺麗で条件もよい。
- \*若いうちに結婚すれば、子どもたくさん産める。
- \*村の娘たちは、昔からそうやって家を助けてきた。
- \*断るなんて、聞いたことない。
- \*しあわせにしてもらいなさい。

結婚相手の母親 (47歳)

- \*若くて働きものの嫁を探していた。
- \*早く息子を結婚させ、孫の顔が見たい。村で孫がいないのは自分だけでみじめ。
- \*自分に替わって家事をやってほしい。最近体調が悪く、寝込みがち。
- \*ミリは若いので、畑仕事も手伝ってもらえる。
- \*比較的裕福で嫁には十分食べさせることができる。
- \*嫁いでくれば弟の進学を約束する
- \*隣村は近い。悪いようにはしない。

■モデルアクティビティ 3-3 教材E ジェンダー平等の世界データ →P.48-49参照



女性や女の子に対する性的人身取引を含むあらゆる種類の差別や暴力、搾取を、世界のどの場所においてもなくすことを目指している。また、無報酬の育児・介護や家事労働をきちんと認識し、評価することや女性や女の子が政治や経済活動の意思決定に平等に参加できること、妊娠と出産に関する女性の権利を守り、土地・財産などに関する女性の権利を確保するために法律やルールをつくりかえることも、目標として掲げている。

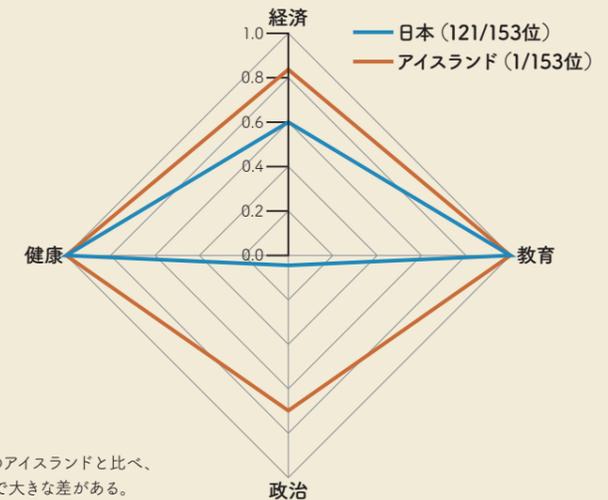
GGI(2020) 上位国及び主な国の順位

順位	国名	スコア
1	アイスランド	0.877
2	ノルウェー	0.842
3	フィンランド	0.832
4	スウェーデン	0.820
5	ニカラグア	0.804
6	ニュージーランド	0.799
7	アイルランド	0.798
8	スペイン	0.795
9	ルワンダ	0.791
10	ドイツ	0.787
15	フランス	0.781
19	カナダ	0.772
21	英国	0.767
53	米国	0.724
76	イタリア	0.707
81	ロシア	0.706
106	中国	0.676
108	韓国	0.672
121	日本	0.652

ジェンダーギャップ指数Gender Gap Index (GGI)

世界経済フォーラムが2019年12月、「Global Gender Gap Report 2020」を公表し、その中で、各国における男女格差を測るGGIを発表した。この指数は、経済、政治、教育、健康の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を示している。バングラデシュは50位で近年ランクアップする一方、日本は121位でランクダウンしている。

GGI (2020) 各分野の比較



■モデルアクティビティ 3-3 教材F ガルトウングの構造的暴力 →P.48-49参照

3つの段階の「暴力」

「暴力」は、直接的暴力、構造的暴力、文化的暴力の段階に分けることができる。3つの「暴力」は相互に依存・補完しあっており、その根底にある文化的暴力の中には、様々な暴力を容認する意識や、私は関係ないと無関心な姿勢が、直接的・構造的暴力を正当化・合法化します。人は言葉を用い、文化を形成しながら、自らの思想や行動の意味を見出すものです。そこから生まれて支えられる暴力を「文化的暴力」と、1990年、平和学者ヨハン・ガルトウングが名付けました。

直接的暴力

具体化



黒人の射殺事件

直接的暴力とは、実際に目に見える暴力。物理的に暴力を加えたり、言葉によって他者を傷つけたりすること。

構造的暴力

正当化



貧困状況・人種差別

構造的暴力とは、社会構造の中に組み込まれている不平等な力関係、経済的搾取、貧困、格差、政治的抑圧、差別、植民地主義、不十分・不公正な法体系や制度等のこと。

文化的暴力



偏見や無関心

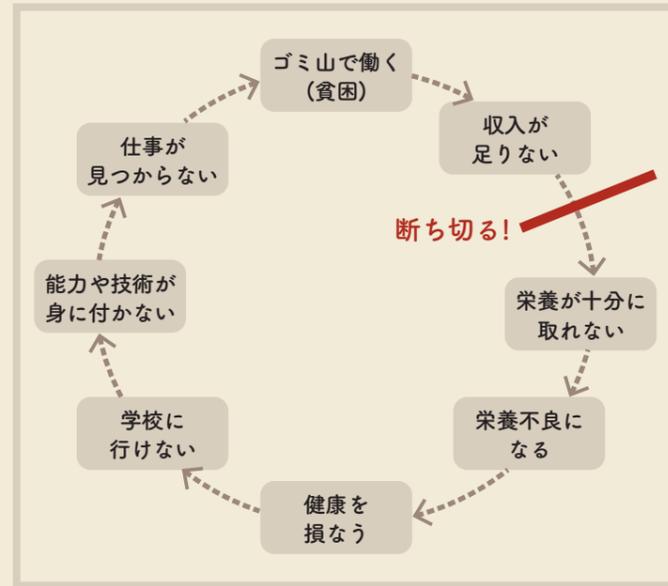
文化的暴力とは、上位2つの暴力に正当性を与え、支えているもののこと。暴力を容認する意識や私は関係ないと無関心な姿勢をとることも含まれる。

■モデルアクティビティ 3-4 教材A 訪問国と日本のちがいで書いたカード残り5枚 →P.50-51参照

- ⑤フィリピンのノア君10歳は屋外でも裸足で過ごしているが、日本のB君は靴を履いている。
- ⑥フィリピンのマイラさん7歳は予防接種ができずポリオにかかってしまったが、日本のDさん7歳は予防接種をしているのでかからない。
- ⑦フィリピンのマリエルさん14歳は学校が終わったらいつも近所の友だちと遊んで過ごす。日本のC君14歳は遅くまで塾で勉強する。
- ⑧フィリピンでは女性が大統領になったことがあるが、日本では女性が首相になったことは一度もない。
- ⑨フィリピンではゴミ埋立場に入って資源をお金にしている人がいるが、日本ではゴミ埋立場に一般人は入ってはいけない。

■モデルアクティビティ 3-4 教材C

「貧困の悪循環」カード8枚の因果関係例 →P.50-51参照



■モデルアクティビティ 3-4 教材E

4つのソーシャルアクション →P.50-51参照

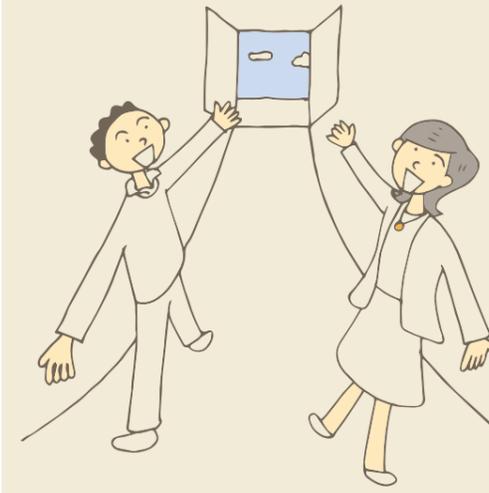
- ① 現場にアクション  
…寄付、支援プロジェクト実施、支援系ボランティア
- ② 政策にアクション  
…意見をまとめて発信、ボイコット&バイコット
- ③ 場づくりにアクション  
…グループの立ち上げ、他団体と一緒に活動/伝える・広める
- ④ 自分自身にアクション  
…知る・調べる・選ぶ、イベントやスタディーツアーに参加、意識変革

■モデルアクティビティ 3-4 教材D 課題に取り組むJICAやNGOの活動を紹介するカード →P.50-51参照

<p><b>給食事業</b></p> <p>ごみとして捨てられていた残飯を洗い、再加熱し食べて生きている子どもたちの8割は、「極度の栄養不良」状態にあります。自治体が運営する保育園を拠点として、地域の母親たちと栄養価の高い食事を作る給食事業を行っています。(ICAN)</p>	<p><b>技術訓練</b></p> <p>地域の母親たちは、技術訓練を通じてディベアの作り方を学び生計向上を目指しました。現在はフェアトレード商品を生産する団体が独立し、アイキャンは経営アドバイスをしています。(ICAN)</p> 	<p><b>保健医療事業</b></p> <p>診療活動や保健教育、デイケア活動、青少年活動等を毎週行ってきた結果、地域保健ボランティアが協同組合を設立して、薬局の売上などから運営費を捻出し、地域住民が主体となった活動を続けています。(ICAN)</p> 
<p><b>教育</b></p> <p>フィリピンは小学校の算数と理科の強化を目指しています。教員が実施する授業の質の向上に向けた支援を行います。具体的には教具の作成や改善、児童の主体性を引き出す指導方法を提案することで、児童の学力向上に寄与します。(JICA)</p>	<p><b>農業</b></p> <p>町内の女性グループの収入向上をめざし、農水産加工品の生産・販売に関する支援を行います。ミズコンポストを活用した有機野菜栽培の普及や、特に付加価値の高いレタスやミニトマトの栽培に協力し、農家の生産性向上を支援します。(JICA)</p>	<p><b>保健</b></p> <p>地域住民の狂犬病予防を目指し、保健教育教材の作成、職員と共にバラングイ(最小行政区)の住民に対する狂犬病予防教育の実施を行います。また統計データの集計・分析支援(罹患率、死亡率等)も行います。(JICA)</p>

※ ICAN(アイキャン)は、危機的状況にある子どもたちの生活改善に取り組んでいる日本のNGO。https://ican.or.jp/ より引用。

# IV 資料



- 1. 参加型手法の解説 ..... 58
  - 1) フォトランゲージ
  - 2) 対比・対比表
  - 3) ランキング
  - 4) ブレーンストーミング
  - 5) ストーリーづくり
  - 6) マッチング
  - 7) ジグソー法
  - 8) マトリックス
  - 9) ロールプレイ
  - 10) 派生図
  - 11) 因果関係図
  - 12) 発表・共有の方法
- 2. 教師海外研修ガイドブック研修の概要 ..... 62
  - 1) ねらい
  - 2) 内容・スケジュール
- 3. 研修参加者からのメッセージ ..... 63



# 1. 参加型手法の解説

本ガイドの12のモデルアクティビティの中で使われている参加型手法について解説します。

★凡例：①基本解説、②例示、③活動の進め方、④使用しているモデルアクティビティ No.

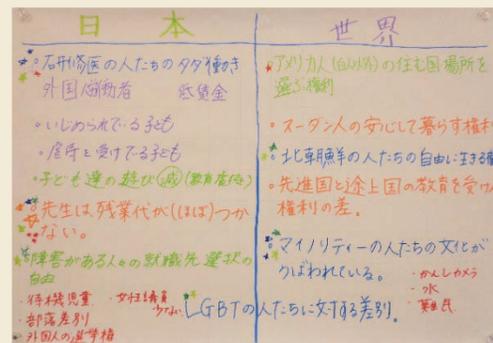
## 1) フォトランゲージ

- ① フォトランゲージとは、「写真」と「言語」が合わさった言葉。写真やイラストから語りかけられる意味や思いなどについて様々な視点から想像する活動。
- ② 写真等から想像する活動すべて
- ③ 写真や絵を見て、内容を想像する、特徴や課題を読み取る、読み取ったことを表現する、展開を考える、隠された部分を想像するなど、ねらいに応じて様々な方法で使用する。
- ④ 1-1、1-2、1-4、2-2、3-1



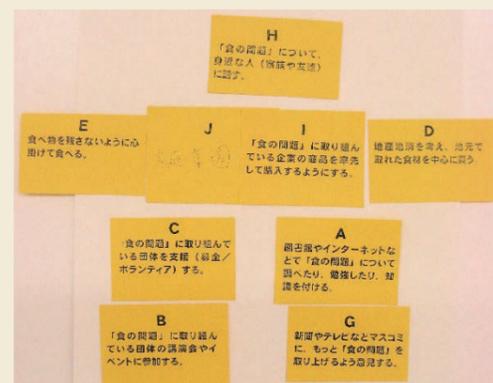
## 2) 対比・対比表

- ① ある事柄を対比する2つの視点から考え、ものごとの特徴を捉える活動。3つ以上の視点で対比するケースもある。
- ② 日本の課題/世界の課題
- ③ 模造紙を左と右に分けて、それぞれの特徴だと思われることをできるだけたくさんリストアップする。「ちがいのちがひ」など、予め用意されたカードを対比表の中に振り分ける方法もある。
- ④ 1-2、1-3、2-1、3-4



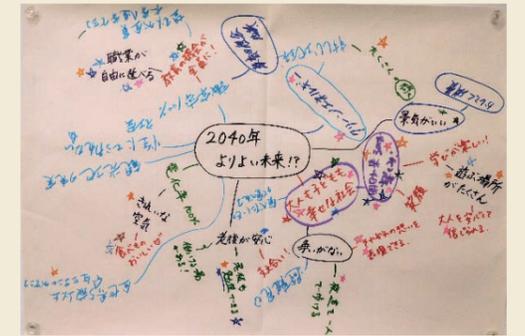
## 3) ランキング

- ① 多様なアイデアについて、自分が考える優先度を考え、自分の価値観をふりかえる活動。さらに他者の価値観と突き合わせることで合意形成に向けた話し合いの態度を身に付ける。
- ② 食の問題を解決する9つの方法ランキング
- ③ 予め用意されたアイデアカードもしくはみんなで出したアイデアを整理したものを、自分が考える価値基準で優先順位をつける。個々人の優先順位の理由を伝え合い、グループとしての合意点を見いだす。単純に1位から順番に順位づける方法、図の様な同位の順位のあるダイヤモンドランキングやピラミッドランキングという方法、シールを使ったテンシズという方法がある。
- ④ 1-3、2-1、3-2



## 4) ブレインストーミング

- ① 直訳すると脳みその嵐。集団で互いに触発されながら、自由に様々なアイデアが生まれるように進める活動。
- ② 2040年のより良い未来の姿
- ③ あるテーマや概念について、それぞれがイメージするもの、思い浮かべるものをどんどんリストアップしていく。模造紙の真ん中にタイトルを書き、各自がマジックを持ち、寄せ書き風に四方八方から、自分のアイデアを伝えながら書き留めていく方法と、リストとして羅列する方法がある。
- ④ 1-4



ブレストで  
大切にルール

- ◇質より量…正解はない。どんどん書きだそう。
- ◇否定ではなく質問…人の意見は否定しない。すべて書き出す。でも質問はOK。
- ◇結合と発展…他の人のアイデアから更にイメージを広げて考える。
- ◇斬新なアイデア歓迎…発想を転換しながら多様な視点でイメージする。
- ◇みんなは応援団…一人ひとりグループの応援団。肯定的な雰囲気作りを。

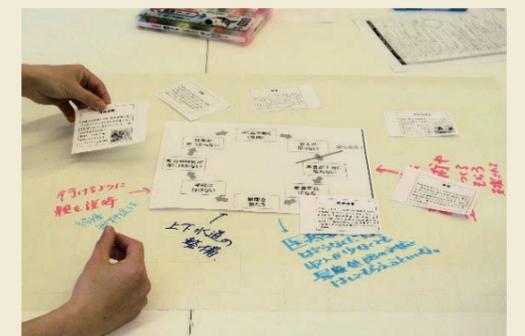
## 5) ストーリーづくり

- ① 写真やイラストから内容や心情を読み取ったり、想像したりすることを通して、より関心や理解を促進する活動。フォトランゲージの一形態。
- ② 4枚の写真をつないで「日本とのつながり」物語づくり
- ③ 1枚の写真を見て、登場人物や背景の環境などからその国の暮らしを想像したことを文章化する。実際の内容を聞き、自分が想像したことと比べることで、より理解を深めたり、自分の想像とのギャップに気づいたりする。
- ④ 1-4、2-2、2-3



## 6) マッチング

- ① 複数の事柄について2つ以上要素を組み合わせたり、複数の事柄がどの区分に該当するかを考えたりすることで、ものごとの分類や要素の理解を促す活動。
- ② 貧困の輪を断ち切る場所への支援活動事例の当てはめ
- ③ 組み合わせる方法…複数の事柄(例:国)を3つの要素(例:国名、特産品、日本とのつながり)が書かれたカードを作り、3つのカード内容を読んで正解の組合せを探る。  
当てはめる方法…複数の事柄(支援活動)について説明したカードを読み、事柄の区分(支援の区分:人づくり、ものづくり、仕組みづくり)のどれに当てはまるか考える。
- ④ 2-4、3-2、3-3、3-4



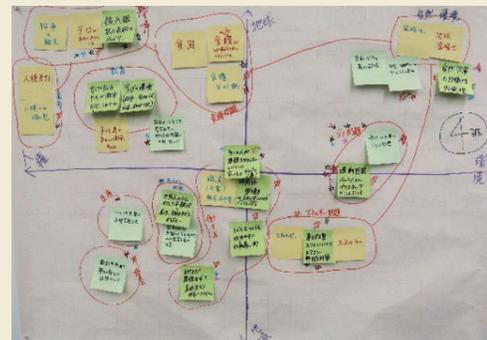
## 7) ジグソー法

- ①ジグソーパズルを解くように全体像（情報）を学習者が協力して学び合う活動。
- ②訪問先情報集を分担して読み3つのポイントを全体共有
- ③全体の情報をグループメンバーで分担して読み解き、理解したことをグループ内で紹介しあって、全体の情報を把握する。複数のグループで分担して読み解いた後、混成グループになって担当分を紹介しあい全体の情報を把握する方法もある。
- ④2-2、2-4



## 8) マトリックス

- ①ある事柄に関して2つの軸を組み合わせて特徴を明確にすることで、複数の観点での気づきや検討を促す活動。
- ②今ある課題の人権と環境/地球と地域のマトリックス
- ③ある程度連続性のある指標の場合は、模造紙に二次元軸を描き、カードに書き出したアイデアを該当する位置に貼ることで相対的な位置から分析する。裏表ははっきりしている2つの区分を組み合わせてアイデアを出す場合は、模造紙に田の字状の4マスの枠を作り、それぞれのマスに書き込む。
- ④2-2、2-4



## 9) ロールプレイ

- ①役割演技。問題となっていることの利害関係者になりきって会話や態度を演じ、当事者の立場や状況の理解を深める活動。
- ②命の水」の利害関係者ロールプレイ
- ③写真の登場人物になりきって自己紹介するといった簡単なものから、ジレンマに陥っている問題の状況を模擬的に再現して、利害関係者の基本的な立場や台詞を用意して話し合いをするといったものまである。
- ④2-4、3-3



## 10) 派生図

- ①ある事柄に関して、そこからどんなことにつながっていくかという影響を探る活動。
- ②もしも生物絶滅を放置したら？
- ③中心のテーマを出発点として、そのことに関連して次に起きることを予想してテーマの周りに書き出し、さらにそこから派生して起きることを考え書き足す。物事の影響を考えることにより、その重大性に気づくことにつながる。
- ④3-1、3-2



## 11) 因果関係図

- ①テーマが起きる根本原因やその状況を作り出す背景にあるものなどを多角的に探る活動。
- ②絶滅する動物がたくさん原因は？
- ③中心に書いたテーマはなぜ起きるのか、その原因や背景を考えてテーマの周りに書き出し、書き出した原因の原因は何か、更に深めて考え追加していく。矢印の向きは派生図とは逆で、外側から中心の円に向かう。
- ④3-3、3-4



## 12) 発表・共有の方法

発表・共有の方法としては、以下のようなものがあります。発表内容の重要度、学習者の学齢期、使える時間から発表・共有方法を選択します。

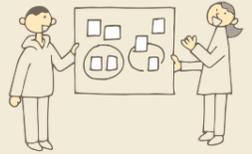
### ■ ポップコーン方式（自由発表・共有）

まるでフライパンの中でポップコーンが弾けるように、拳手はせずどんどん発表し、Fが板書して共有する方法です。同じ人、または同じグループの人が連続して発言するのはなるべく避ける。Fが板書するスピードに合わせて、タイミングを見ながら発言するように伝えて行くとスムーズです。



### ■ プレゼンテーション方式（成果物の発表・共有）

グループごとにまとめた内容を、参加者に向けて時間内で発表する方法です。模造紙を持つ人、発表する人などグループ内で役割を決めて協力して行くとスムーズです。時間によっては、すべてのグループではなく、2〜3グループだけに発表をしてもらうこともあります。



### ■ ギャラリー方式（成果物の共有）

まるでギャラリーで絵を見て回るように、各グループの成果物を各自が自由に歩いて見て回る方法です。ペンを持って回り、「いいね」「なるほど」と思ったものに★印を付ける活動を加えると反応が確かめられて自己効力感が高まります。



### ■ 回し読み方式（成果物の共有）

人は移動しないで成果物を回す方法です。「ギャラリー方式」より落ち着いて読むことができ、同じグループで話し合いながら見ることが利点です。近くの数グループのみ、関連する成果物同士のみで回すこともできます。★印を付ける活動もできます。



### ■ マゴリス・ウィール（個人間の発表・共有）

二重の円を作り、内側の円の人と外側の円の人は向かい合ってペアになり、お互いのアイデアを伝え合い共有します。数分ごとに内側の円の人が時計回りに隣に1人ずつ、相手を変えながら同じことを何度かくりかえします。



## 2. 教師海外研修ガイドブック研修の概要

### 1) ねらい

- JICA中部の教師海外研修に参加し、学校で授業実践した過年度受講者らの体験と実践、並びに16年間積み重ねてきた教師海外研修にかかる事前・現地・事後研修の効果と課題を振り返る。
- 今後、教師海外研修を受講する教師が、先行知見から素早く学び、貴重な現地研修の時間を有意義に過ごし、よりよい開発教育・国際理解教育の実践と周りの教師への波及につなげられるようにするための『ガイドブック』を共に創り上げる。
- ガイドブックづくりを通して、本研修受講者の教材づくりの知識やスキルの向上を図る。



### 2) 内容・スケジュール

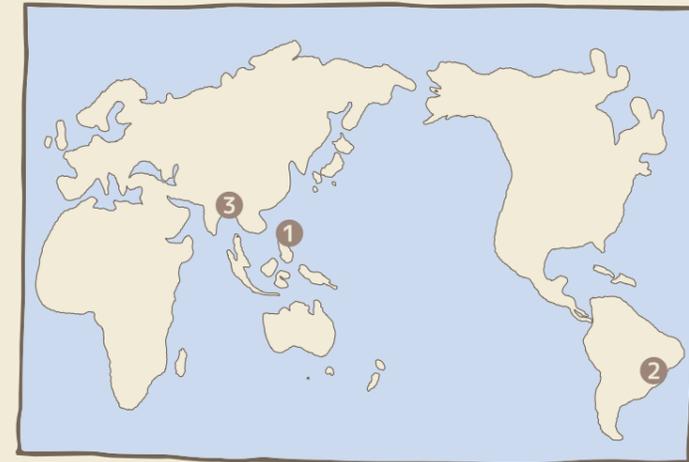
日程	主な内容	成果物
第1回 2020年 8/22(土) 10~16時	1. 目的、研修内容と全体スケジュールの確認 2. 教師海外研修で得られるもの 3. 学齢区分ごとのアクティビティのねらいの検討 4. 過年度受講者の実践概要の共有と担当実践事例決め	* ガイドブックに盛り込みたい要素 * 教師海外研修で得られるもの、教育実践に役立つこと * 学齢区分ごとのねらい案
第2回 9/12(土) 10~16時	1. 過年度受講者の実践10事例の分析 2. 分析結果の共有 3. 分析からわかったこと(傾向等)と課題の整理	* 実践事例の「ねらい」+「収集素材」+「活用方法」の分析結果 * 実践事例の傾向と課題
第3回 10/11(日) 10~16時	1. ねらいを実現するアクティビティのアイデア出し 2. ねらいごとに教師海外研修で収集できる素材 3. モデルアクティビティづくりの担当決め	* ねらいを実現するアクティビティと収集素材のアイデア
第4回 11/28(土) 10~16時	1. アクティビティの記載項目と作成のポイント 2. ねらいを実現するモデルアクティビティづくり	* 学齢区分ごとのねらいを実現するモデルアクティビティ案
第5回 12/13(日) 13~16時	1. モデルアクティビティの模擬実践と提案会	* モデルアクティビティ案に対する賞賛と提案
第6回 2021年 2/7(日) 13~16時	1. モデルアクティビティ修正案の確認と検討	* 汎用モデルアクティビティ修正案に対する提案
第7回 2/21(日) 13~16時	1. ガイドブック(素案)の共有と意見交換 2. 柱3のモデルアクティビティの体験※	* 教師海外研修ガイドブック案

※2/27(土)開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム2021(オンライン)においてプログラムを提供しました。



## 3. 研修参加者からのメッセージ

本研修には、右表のJICA中部の教師海外研修を受講した受講者の中から12名が参加しました。今後同研修を受講する教師に向けて、「教師海外研修にもう一度行けるとしたらこんな視点で見てくる!」、「モデルアクティビティに載せきれなかった「現地素材」とその生かし方」というテーマでメッセージをおくります(訪問年度順)。



年度	訪問国	人数
2004	マラウイ ガーナ	24
2005	マラウイ	8
2006	マラウイ	10
2007	ブラジル フィリピン	16
2008	ブラジル フィリピン(1)	16
2009	ブラジル(1) フィリピン	16
2010	ブラジル バングラデシュ	15
2011	ブラジル バングラデシュ(2)	16
2012	ガーナ ラオス	17
2013	ガーナ ラオス	19
2014	ガーナ ラオス	19
2015	ガーナ エルサルバドル(1)	19
2016	パラグアイ(1) エチオピア(1)	17
2017	パラグアイ エチオピア	16
2018	パラグアイ(2)	8
2019	パラグアイ(3)	10
合計	16年間、9カ国(延べ28カ国)	246

※太字・カッコ数字は本ガイドブック研修参加者の訪問国・人数

### 1) 山本孝次

[高等学校教諭/フィリピン2008]



将来の交流校を探すつもりで行く。訪問先の学校でもっと授業をしたい。高校で授業ができるなら、同じ地球の住人としてSDGsの達成に向けて共に何ができるかを考えたい。現地での授業だけでなく、今なら日本に戻ってきた後の交流のことも視野に入れて行く。訪問だけでなく、郵便での手紙やカード、カルチャーボックスの交換やオンラインでの交流も楽しみだ。ああ、本当にもう一度海外研修に行きたいなあ。

### 2) 夏目佳代子

[高等学校教諭/ブラジル2009]



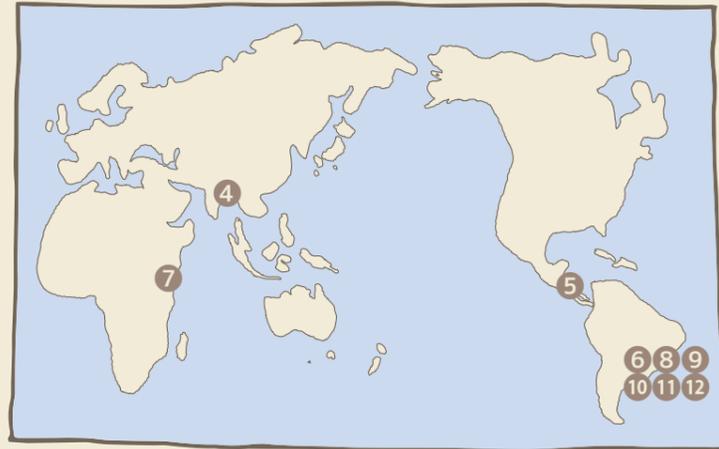
人類共通の課題について、訪問国の現状や原因、課題解決に向けてどんな取り組みが行われているのか、そこから日本が学べることは何かという視点をもって見てきたい。訪れたブラジルでは、環境に調和した生活を目指して尽力している人たちと出会った。現地で行われている環境を生かす取り組みから、日本の課題や解決のためにできることを考えるなど、共に課題を越えることを目指したアクティビティに活かせると思う。

### 3) 中澤純一

[中学校・高等学校教諭/バングラデシュ2011]



初めての、教師海外研修、途上国訪問、現地でみる海外協力隊の活動、リアルに出会う現地の人々など、全てが初めてで何もかもが新鮮。しかし、どこか心に余裕がない。だから、手あたりしだい資料収集。今なら、以前よりも国際理解教育や途上国に関する深い知識や経験を持って参加できるはず。次は、目的やねらいを明確にしての資料収集。さらには、収集した素材からつくった教材が、訪問国や途上国の課題解決に寄与できるものにした。



#### 4 前田昌美

〔高等学校教諭／バングラデシュ 2011〕



「途上国は人が面白い！」これにつきる！異文化世界に飛び込むわけだから、珍しいもの、ワクワクするものに出会うだろう。でも私は「人」が一番面白かった。興味深い人生に出会えた。人それぞれに人生ストーリーがあった。できれば取材力もつけてから行くとい。滞在中は、世の中の不条理に憤ったり、もろもろのことに感動したり心も体もフル回転で疲れる。収集素材は、直感を働かせて現地でピンとくるものは何でも買ってくる、拾ってくる！？

#### 5 野村佳世

〔中学校教諭／エルサルバドル 2015〕



現地の方の希望に溢れる日常生活をじっくりと見て、聞いて、体験したい。あちらこちらを写真や映像に残すことも大事だが、今はネットで調べれば何でも探せてしまう。教員研修に行った私だからこそ伝えられるものを見つけたい。それが後に自分の強みとなり、教材に生きるはず。そのために現地では、人々の生き方や夢、希望を見つけ、自分から話してみたいと思う。

#### 6 児玉やこ

〔小学校教諭／パラグアイ 2016〕



日本に帰った後、課題を共に解決するためにはどういう方法があるのか、子どもたちが考えられるような材料を見つけてきたい。訪問国のすてきなところや課題、日本とのつながりについての情報は手に入りやすいが、共に解決するという視点での素材集めが必要である。今なら、訪問国がSDGsについてどう考え、動いているかも聞いてみたい。訪問国で活躍する日本人の夢インタビューは、中学生のキャリア教育でとても有効だった。

#### 7 近藤勝士

〔小学校教諭／エチオピア 2016〕



人とのつながりをより一層大切にしたいと思う。オンライン等で遠く離れていてもすぐにもつながることができる環境が整いつつある現代において、現地とのつながりがあれば、毎日教室で子どもたちとともにコミュニケーションをとることも可能。そのこと自体が教材となり、無限の広がりとなっていくはず。もちろん、その時、その場でしか感じられないことも大切にしながら、今後のつながりを意識した視点でできる限りのものを得てきたいと思う。

#### 8 伊藤聡子

〔中学校教諭／パラグアイ 2018〕



教師海外研修では、現地の人々や専門家・協力隊の方々など、カッコいい生き方をしている人との出会いがたくさんあった。出会った人々の使命感をもって活動する姿などを五感で体感し、私自身の生き方についても多くのことを考えさせられた体験となった。この貴重な学びを目の前の子どもたちに伝えるためにも、「道徳やキャリア教育の教材収集」という視点でもう一度見てみたい。

#### 9 宮川勇作

〔小学校教諭／パラグアイ 2018〕



学校で会う子ども達や様々な分野で働く方々のお話はもちろんだが、現地の人々が普段の生活の中で幸せに感じることや家庭での子育てなどについて、もっとじっくり見たり聞いたりしたい。現地素材のオススメは、「国旗（どの国にも国旗があり、さまざまな意味が込められているので、アクティビティの導入にピッタリのアイテム。）」と「現地の学校で使われている教科書（言語がわからなくてもどんなことを学んでいるか想像したり、比べたりできる。）」である。

#### 10 狩山智美

〔小学校教諭／パラグアイ 2019〕



現地では国際協力に携わっている方達との交流機会が多くあった。もう一度行けるなら、現地の課題に対してどのような支援（現地国での取り組みも含め）がなされ、それがどのような効果をもたらしたのか、もっと詳しく聞きたい。子どもたちには、課題ばかりでなく、国際協力や自国の努力により世界が少しずつ良くなっていることを伝えたい。今度は自分の番だ、自分たちの手で未来をよりよいものにしよう、いう気持ちをもてるような実践を心掛けたい。

#### 11 柴田英子

〔小学校教諭／パラグアイ 2019〕



実践を通し、同じ世代の子どもの話や現地で困っている人の話をすると、児童に「人類の共通の課題」をより身近に感じさせることができるとわかった。そこで、もう一度行けるとしたら、そこに住んでいる子どもや大人の人の生の声を聞きたい。何を願ってそこで暮らしているのか、絵本を描くつもりで具体的に見てきたい。どのような理想の未来を思い描き、何をすべきか国を超えて考えを共有するきっかけをつくるために、現地の声を日本の児童に届けたい。

#### 12 宮嶋いずみ

〔小学校教諭／パラグアイ 2019〕



多くの国で問題になりがちな、ごみ、貧困、ジェンダー、教育、水などについて、その国では問題があるのか、という視点を持ち、①現状はどうか、②対策としてどんなことをされているのかについて調べてきた。授業を行う時に、それらの資料がたくさんあると、授業を行いやすい。



## JICA中部 教師海外研修ガイドブック

発 行 2021年3月

発 行 者 独立行政法人国際協力機構 中部センター  
〒453-0872 愛知県名古屋市中村区平池町4丁目60-7  
TEL 052-533-0220 (代表)

アクティビティ  
原 案 作 成 2020年度教師海外研修ガイドブック作成編受講者

執 筆 ・ 編 集 NPO法人NIED・国際理解教育センター